

第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域及びその周囲の概況については周囲 2.0km^注を調査対象地域として、既存の文献または資料の収集・整理により把握した。

なお、大気汚染、騒音、振動、悪臭、水質及び土壌等の広域的な事項や市町単位で地域環境の状況を述べる事項については、笠岡市、浅口市、里庄町の2市1町の範囲を調査対象地域とした。

注)平成20年度に現施設の焼却能力変更にあたって、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく、「生活環境影響調査」を実施した。その際に実施した煙突排ガスの拡散予測結果では、最大着地濃度出現が既存施設北側に距離約1kmであったことから、その2倍の距離の範囲を含む2kmを対象事業実施区域及びその周囲の概況の調査対象地域とした。

3-1 自然的状況

3-1-1 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

1. 気象

対象事業実施区域が位置する岡山県は、島々と平野部からなる瀬戸内側、吉備高原と盆地を中心とした内陸部及び中国山地の3つに大別され、これらの地形や地理的条件がそれぞれの気候特性として現れている。対象事業実施区域は、瀬戸内側に位置し、温暖で、年間を通して降水量が少ない。

対象事業実施区域に最寄りの気象観測所は、対象事業実施区域の西約6.5kmに位置する笠岡地域気象観測所である。気象観測所の位置は、図3-1.1に示すとおりである。

(1) 気温・降水量・日照時間

平成3年～令和2年の30年間における笠岡地域気象観測所の気温・降水量・日照時間の観測結果(平年値)は、表3-1.1に示すとおりである。

月別平均気温は、最低気温が1月の4.5℃、最高気温が8月の28.0℃、全年の平均気温が15.7℃であった。

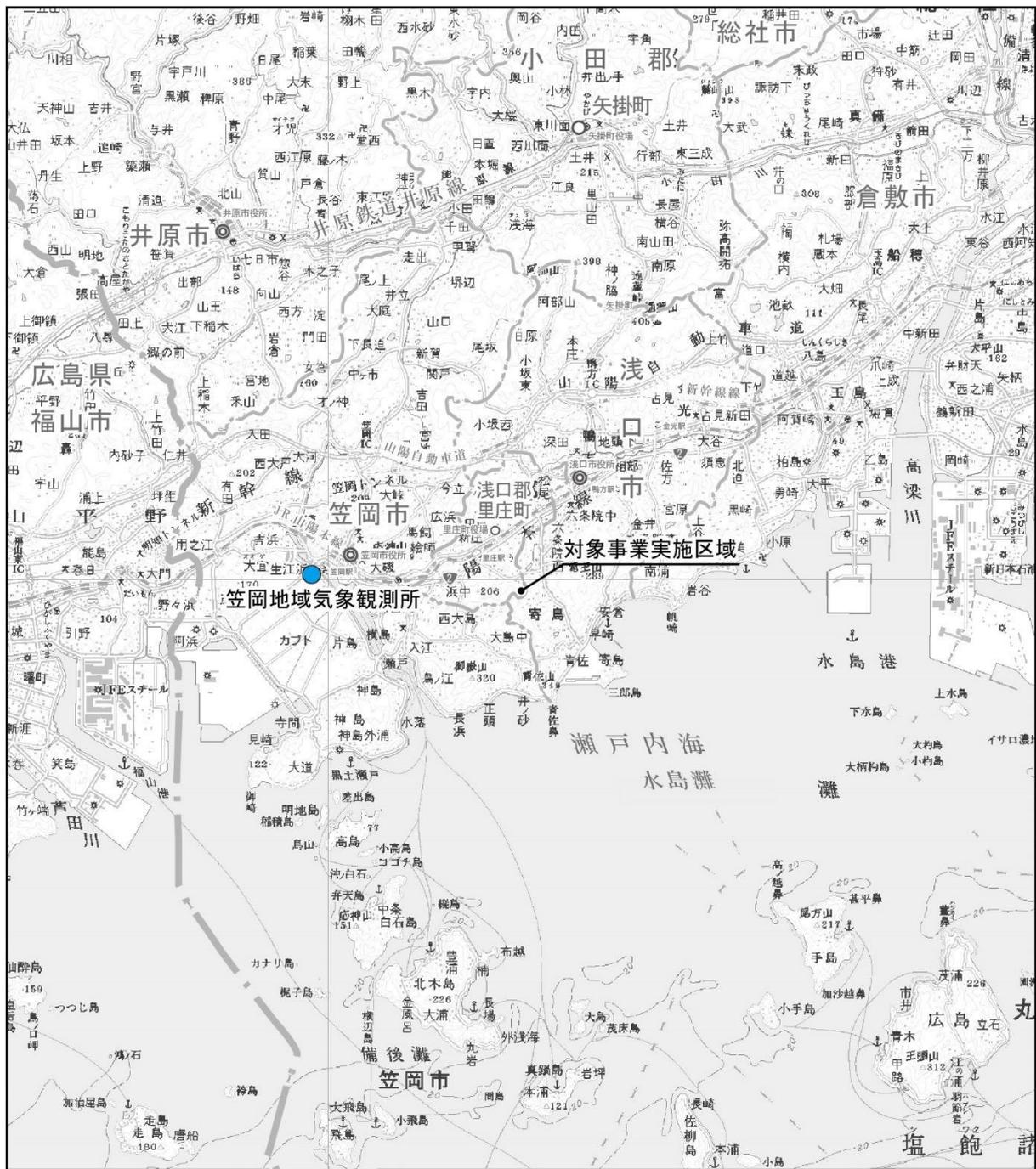
月別降水量は、5～7月及び9月で100.0mm以上を記録し、特に6～7月では160.0mmを超えている。また、全年の年間降水量は1055.1mmであった。

月別日照時間は、8月の224.5時間が最も長く、2月の146.3時間が最も短かった。また、日照時間の合計は2110.5時間であった。

(2) 風向・風速

笠岡地域気象観測所における風向、風速の観測結果は、表3-1.2に示すとおりである。

過去5年の年間平均風速は1.9～2.2m/s、最多風向は北北西または北西であり、大きな変動は見られない。また、月別の平均風速は1.5～2.6m/s、最多風向は北北西または北西であり、季節による大きな違いは見られない。

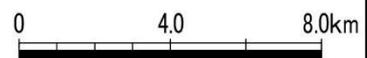


凡 例

- 対象事業実施区域
- 気象観測所



SCALE 1 : 200,000



この地図は、国土院発行の20万分1地勢図をもとに作成した。

図3-1.1 気象観測所位置図

表 3-1.1 笠岡地域気象観測所における気温・降水量・日照時間の観測結果（平年値）

月	項目	気温（℃）			降水量 (mm)	日照時間 (時間)
		平均	最高	最低		
1月		4.5	9.4	0.0	33.0	150.1
2月		5.1	10.2	0.3	41.6	146.3
3月		8.3	13.5	3.1	76.6	181.8
4月		13.6	19.0	8.2	81.2	196.9
5月		18.6	23.9	13.5	102.7	212.0
6月		22.6	27.1	18.7	160.7	162.3
7月		26.7	31.1	23.2	172.9	194.1
8月		28.0	32.8	24.2	80.0	224.5
9月		24.1	28.7	20.1	129.2	167.8
10月		18.0	23.1	13.5	87.5	172.1
11月		12.0	17.2	7.3	50.2	152.5
12月		6.7	11.8	2.2	39.6	150.1
年		15.7	20.6	11.2	1055.1	2110.5

注) 統計期間は、平成3年～令和2年の30年間。
出典：「気象観測所データ」（気象庁ホームページ）

表 3-1.2 笠岡地域気象観測所における風向、風速の観測結果

月	項目	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
		平均風速 (m/s)	最多風向								
1月		2.2	北西	2.4	北西	2.3	北西	2.2	北西	2.1	北北西
2月		2.4	北西	2.4	北北西	2.4	北西	2.1	北北西	2.3	北北西
3月		2.1	北北西	2.3	北北西	2.3	北北西	2.5	北北西	2.4	北北西
4月		2.1	北北西	2.2	北北西	2.2	北西	2.4	北北西	2.6	北西
5月		2.1	北北西	2.1	北西	1.9	北北西	2.2	北西	2.2	北西
6月		1.7	北北西	1.9	北西	1.6	北西	2.1	北北西	2.0	北西
7月		1.8	北西	1.7	北西	2.0	北西	1.8	北北西	1.8	北北西
8月		2.1	北北西	2.1	北北西	2.3	北西	2.3	北西	2.1	北西
9月		1.6	北北西	1.8	北北西	1.8	北北西	2.0	北北西	2.2	北北西
10月		1.5	北北西	1.5	北北西	2.0	北北西	2.0	北北西	1.8	北北西
11月		1.7	北北西	1.9	北西	1.8	北北西	2.1	北北西	1.9	北北西
12月		1.9	北北西	2.3	北西	2.1	北北西	2.0	北北西	2.4	北西
年		1.9	北北西	2.1	北西	2.1	北北西	2.1	北北西	2.2	北北西

注) 表中の「) 」は準正常値を示す。統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値と同等とする。
出典：「気象観測所データ」（気象庁ホームページ）

2. 大気質

大気汚染防止対策のための基礎資料を収集することを目的とし、大気汚染常時監視測定局が設けられている。そのうち、一般環境大気測定局は、大気汚染防止法第 22 条に基づき、住宅地等の一般的な生活空間における大気汚染の状況を常時監視する測定局である。一方、自動車排出ガス測定局は、大気汚染防止法第 20 条及び第 22 条に基づき、道路周辺において自動車排出ガスによる大気汚染の状況を常時監視する測定局である。

調査対象地域では、一般環境大気測定局として、寺間測定局(南西約 8 km)、茂平測定局(西約 9.5 km)、金光測定局(北東約 7.5 km)及び寄島測定局(南東約 3 km)の 4 局、自動車排出ガス測定局として大磯測定局(西約 4.5 km)がある。

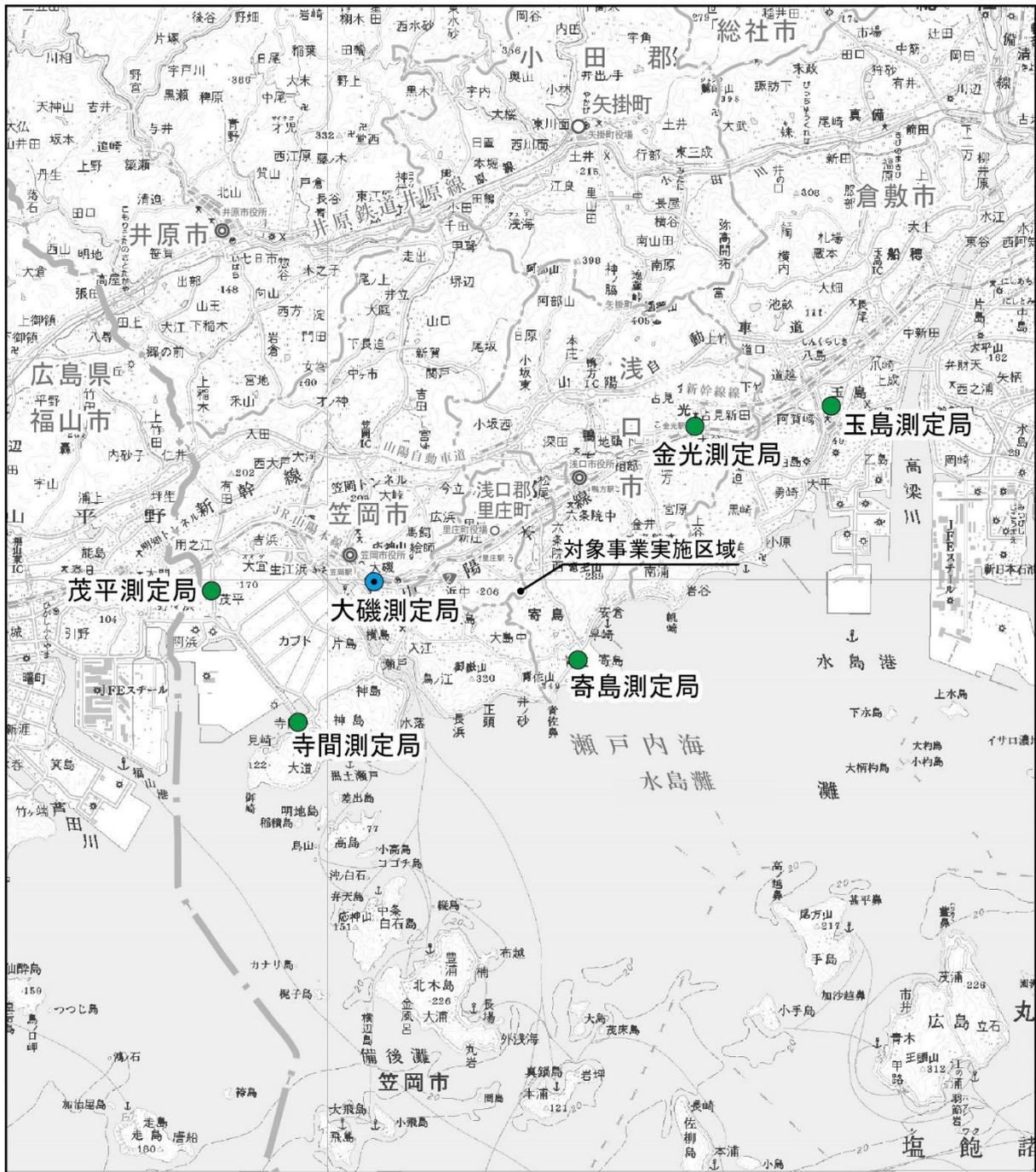
なお、調査対象地域外であるが、微小粒子状物質の測定を行っている測定局として玉島測定局(北東約 11.0 km)がある。

各測定局の測定項目は、表 3-1.3 に示すとおりである。

表 3-1.3 測定項目一覧

種 別	局 名	測 定 項 目						
		二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	微小粒子状物質	有害大気汚染物質	ダイオキシン類
一般環境大気	寺間	○	○	○	—	—	—	—
	茂平	—	○	○	○	○	○	○
	金光	—	○	○	○	—	—	—
	寄島	○	—	—	○	—	—	—
	玉島	○	○	○	○	○	—	—
自動車排出ガス	大磯	—	○	○	○	—	—	—

出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果」(岡山県環境保健センター)、「有害大気汚染物質等環境調査結果 令和 2 年度」(岡山県環境管理課)、「ダイオキシン類環境調査結果 令和 2 年度」(岡山県環境管理課)



凡 例

- 対象事業実施区域
- 自動車排出ガス測定局
- 一般環境大気観測局

この地図は、国土地理院発行の20万分1地勢図をもとに作成した。

N

SCALE 1 : 200,000

出典：「令和2年度大気及び水質等測定結果について（参考資料）」（令和3年、岡山県環境管理課）

図 3-1.2 大気測定局位置図

(1) 二酸化硫黄

寺間、寄島、玉島測定局における令和2年度の二酸化硫黄の測定結果を表3-1.4に示す。いずれの測定局も環境基準（短期的評価、長期的評価）を達成していた。

また、過去5年間における年平均値の経年変化は図3-1.3に示すとおり、いずれの測定局もほぼ横ばいの状況であった。

表3-1.4 二酸化硫黄年間測定結果（令和2年度）

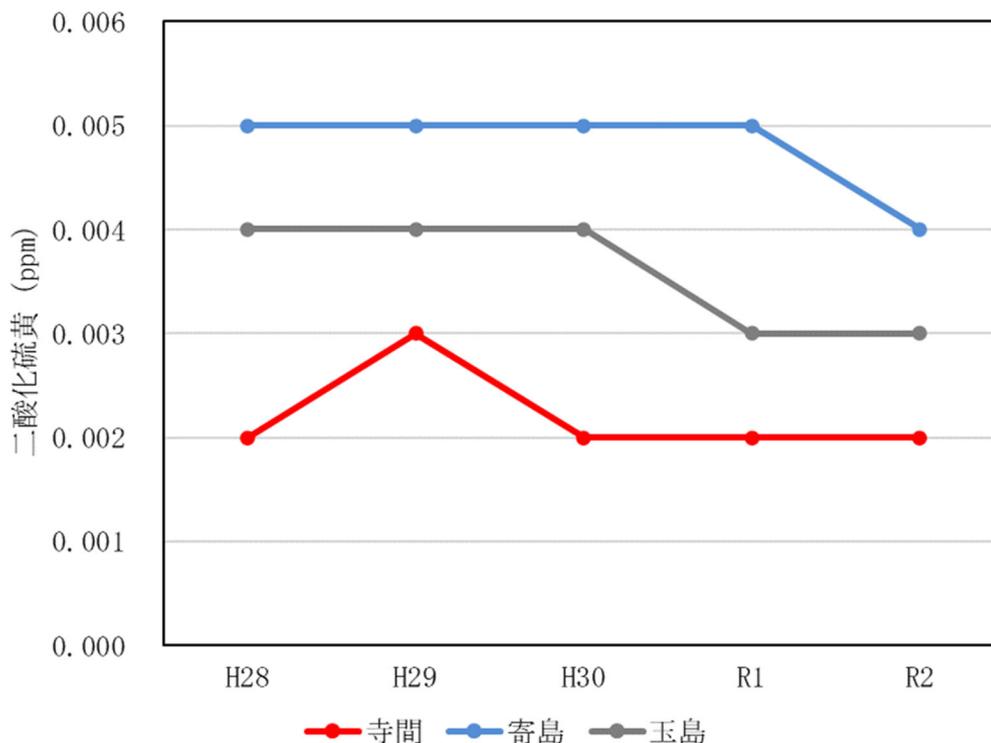
測定局	年平均値	1時間値の最高値	短期的評価				長期的評価		
			1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	日平均値が0.04ppmを超えた日数
			時間	%	日	%			
寺間	0.002	0.016	0	0.0	0	0.0	0.005	○	0
寄島	0.004	0.017	0	0.0	0	0.0	0.007	○	0
玉島	0.003	0.016	0	0.0	0	0.0	0.005	○	0

注) 環境基準

短期的評価：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること

長期的評価：日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であること（ただし、日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続した場合は環境基準達成としない）

出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 令和2年度」（岡山県環境保健センター）



出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境保健センター）

図3-1.3 二酸化硫黄経年変化（年平均値）

(2) 二酸化窒素

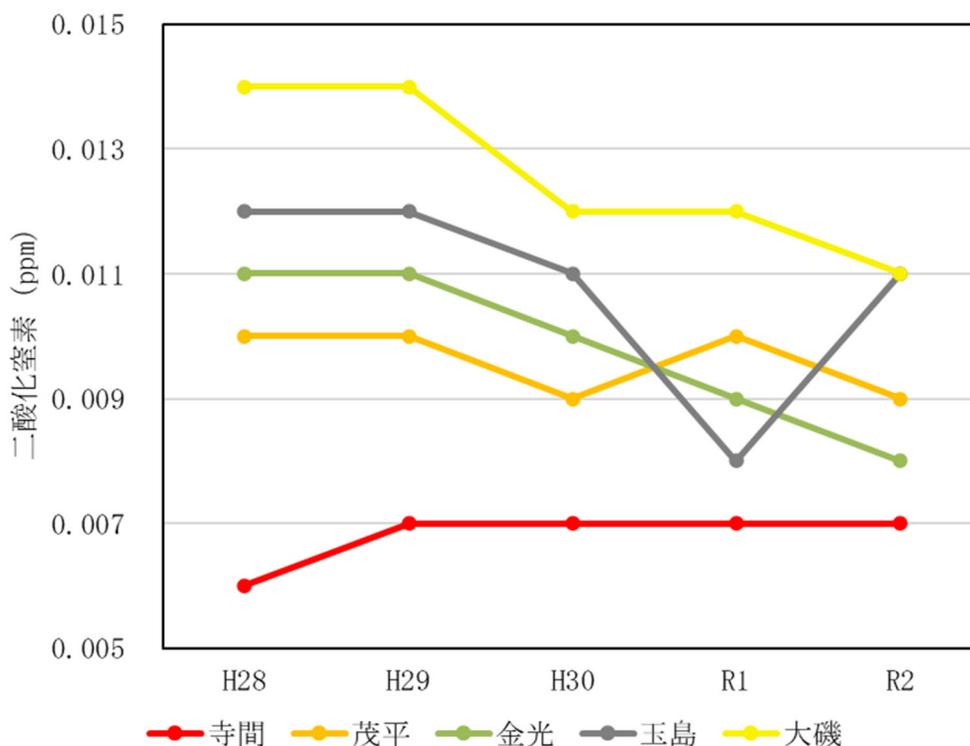
寺間、茂平、金光、玉島、大磯測定局における令和2年度の二酸化窒素の測定結果を表3-1.5に示す。いずれの測定局も環境基準を達成していた。

また、過去5年間における年平均値の経年変化は図3-1.4に示すとおり、いずれの測定局もほぼ横ばいの状況であった。

表 3-1.5 二酸化窒素年間測定結果（令和2年度）

測定局	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		長期的評価	
			日	%	日	%	日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
	ppm	ppm					ppm	日
寺間	0.007	0.035	0	0.0	0	0.0	0.015	0
茂平	0.009	0.048	0	0.0	0	0.0	0.020	0
金光	0.008	0.044	0	0.0	0	0.0	0.020	0
玉島	0.011	0.046	0	0.0	0	0.0	0.026	0
大磯	0.011	0.050	0	0.0	0	0.0	0.023	0

注) 環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること
 出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 令和2年度」（岡山県環境保健センター）



出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境保健センター）

図 3-1.4 二酸化窒素経年変化(年平均値)

(3) 浮遊粒子状物質

寺間、茂平、金光、玉島、大磯測定局における令和2年度の浮遊粒子状物質の測定結果を表3-1.6に示す。いずれの測定局も環境基準（短期的評価、長期的評価）を達成していた。

また、過去5年間における年平均値の経年変化を図3-1.5に示す。寺間、金光、玉島、大磯測定局では、ほぼ横ばいの状況であった。また、茂平測定局では、平成29年度以降は低下している状況であった。

表 3-1.6 浮遊粒子状物質年間測定結果（令和2年度）

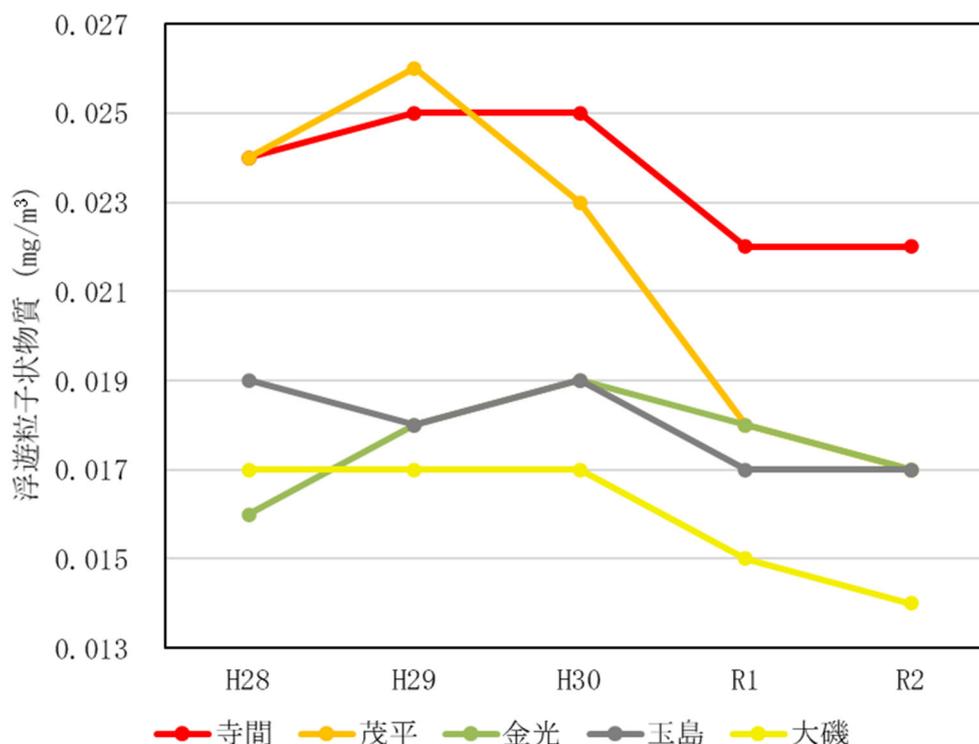
測定局	年平均値	1時間値の最高値	短期的評価				長期的評価		
			1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数
			時間	%	日	%			
寺間	0.022	0.147	0	0.0	0	0.0	0.053	○	0
茂平	0.017	0.097	0	0.0	0	0.0	0.044	○	0
金光	0.017	0.121	0	0.0	0	0.0	0.052	○	0
玉島	0.017	0.150	0	0.0	0	0.0	0.051	○	0
大磯	0.014	0.088	0	0.0	0	0.0	0.040	○	0

注) 環境基準

短期的評価：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること

長期的評価：日平均値の2%除外値が0.10mg/m³以下であること（ただし、日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日以上連続した場合は環境基準達成としない）

出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 令和2年度」（岡山県環境保健センター）



出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境保健センター）

図 3-1.5 浮遊粒子状物質経年変化（年平均値）

(4) 光化学オキシダント

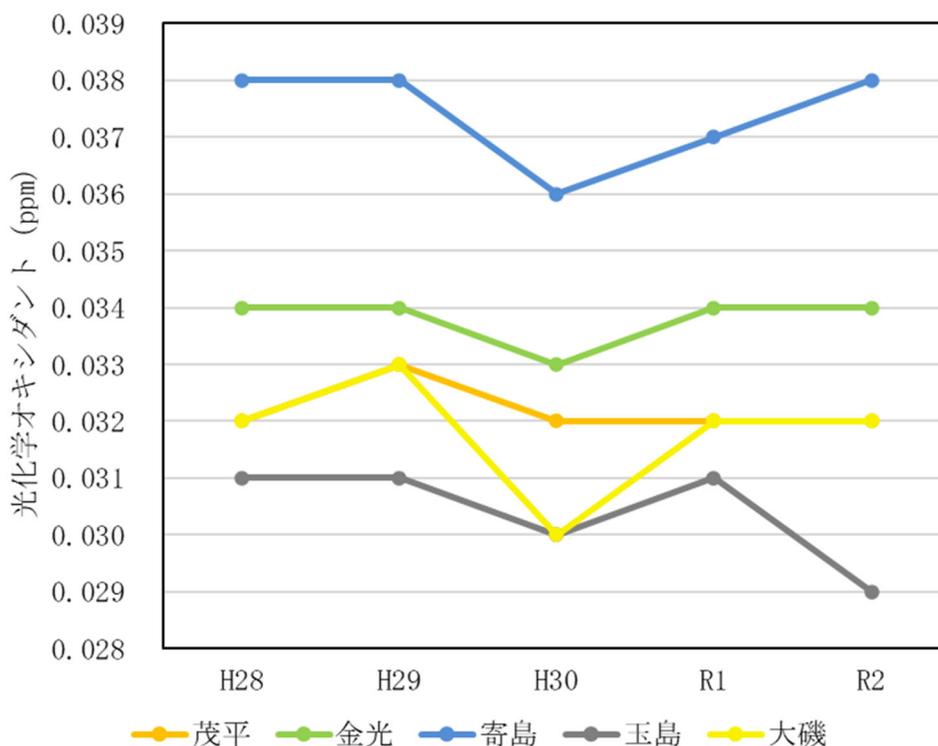
茂平、金光、寄島、玉島、大磯測定局における令和2年度の光化学オキシダントの測定結果を表3-1.7に示す。いずれの測定局も環境基準を達成しなかった。

また、過去5年間における昼間の1時間値の平均値の経年変化を図3-1.6に示す。いずれの測定局もほぼ横ばいの状況であった。

表3-1.7 光化学オキシダント年間測定結果（令和2年度）

測定局	昼間の1時間値の平均値	昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数	
	ppm	ppm	ppm	日	時間	日	時間
茂平	0.032	0.098	0.049	76	365	0	0
金光	0.034	0.126	0.050	80	391	1	1
寄島	0.038	0.123	0.052	94	488	1	1
玉島	0.029	0.101	0.043	52	250	0	0
大磯	0.032	0.095	0.047	63	310	0	0

注) 環境基準：昼間（6時から20時まで）の1時間値が全て0.06ppm以下であること
 出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 令和2年度」（岡山県環境保健センター）



出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境保健センター）

図3-1.6 光化学オキシダント経年変化（昼間の1時間値の平均値）

(5) 微小粒子状物質

茂平、玉島測定局における令和2年度の微小粒子状物質の測定結果を表3-1.8に示す。両測定局とも環境基準（短期的評価、長期的評価）を達成していた。

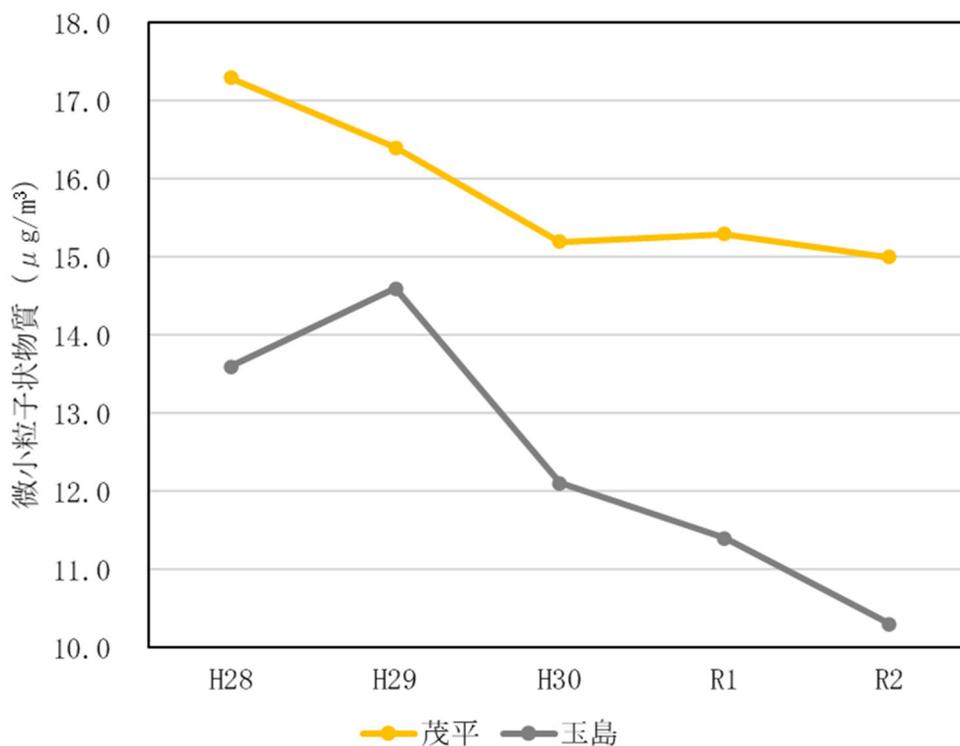
また、過去5年間に於ける年平均値の経年変化を図3-1.7に示す。茂平測定局は平成30年度まで低下し、それ以降はほぼ横ばいの状況である。玉島測定局は平成29年度以降、低下している状況であった。

表 3-1.8 微小粒子状物質年間測定結果（令和2年度）

測定局	有効測定日数	長期基準評価	短期基準評価	日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数
		年平均値	日平均値の年間98%値	
	日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日
茂平	361	15.0	34.1	7
玉島	365	10.3	30.8	3

注) 環境基準：1年平均値（長期基準）が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、日平均値の年間98%値（短期基準）が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 令和2年度」（岡山県環境保健センター）



出典：「岡山県の環境大気の常時観測結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境保健センター）

図 3-1.7 微小粒子状物質経年変化（年平均値）

(6) 有害大気汚染物質

茂平測定局における平成 28 年度～令和 2 年度の有害大気汚染物質の調査結果を表 3-1.9 に示す。調査結果は、基準設定項目で環境基準値（指針値）を満足していた。

表 3-1.9 有害大気汚染物質測定結果（平成 28 年度～令和 2 年度）

項 目		年平均値					環境基準 (指針値)
		H28	H29	H30	R1	R2	
アクリロニトリル	μg/m ³	0.019	0.026	0.014	0.021	0.020	(2 以下)
塩化ビニルモノマー	μg/m ³	0.017	0.013	0.0070	0.0092	0.017	(10 以下)
クロロホルム	μg/m ³	0.12	0.14	0.086	0.11	0.13	(18 以下)
1,2-ジクロロエタン	μg/m ³	0.12	0.13	0.14	0.12	0.14	(1.6 以下)
ジクロロメタン	μg/m ³	0.57	0.74	0.57	0.62	0.51	150 以下
テトラクロロエチレン	μg/m ³	0.029	0.030	0.014	0.038	0.042	200 以下
トリクロロエチレン	μg/m ³	0.040	0.045	0.042	0.049	0.055	130 以下
1,3-ブタジエン	μg/m ³	0.061	0.034	0.052	0.020	0.022	(2.5 以下)
ベンゼン	μg/m ³	1.2	1.2	1.1	1.5	1.1	3 以下
塩化メチル	μg/m ³	1.4	1.1	1.1	1.2	1.0	(94 以下)
トルエン	μg/m ³	3.2	4.3	4.3	4.8	3.2	—
酸化エチレン	μg/m ³	0.026	0.036	0.059	0.050	0.042	—
アセトアルデヒド	μg/m ³	1.2	1.0	0.97	1.0	1.1	(120 以下)
ホルムアルデヒド	μg/m ³	1.7	1.6	1.5	1.6	1.7	—
ニッケル化合物	ng/m ³	2.6	4.1	2.3	2.5	2.0	(25 以下)
ヒ素及びその化合物	ng/m ³	1.7	2.2	2.3	1.7	2.6	(6 以下)
バリリウム及びその化合物	ng/m ³	0.024	0.029	0.022	0.024	0.029	—
マンガン及びその化合物	ng/m ³	34	60	41	55	49	(140 以下)
クロム及び三価クロム化合物	ng/m ³	2.9	3.8	3.3	5.9	5.4	—
六価クロム化合物							—
水銀及びその化合物	ng/m ³	2.3	2.0	1.8	1.9	1.7	(40 以下)
ベンゾ [a] ピレン	ng/m ³	0.42	0.57	0.39	1.4	0.66	—

注) 1. () で示す値は指針値を表す。

2. 個別の分析が困難のため、クロム及びその化合物（全クロム）としている。

出典：「有害大気汚染物質等調査結果 平成 28 年度～令和 2 年度」（岡山県環境管理課）

(7) ダイオキシン類

茂平測定局における平成 28 年～令和 2 年度のダイオキシン類の調査結果を表 3-1.10 に示す。
平成 28 年度～令和 2 年度の調査結果は、環境基準を達成していた。

表 3-1.10 ダイオキシン類測定結果（平成 28 年度～令和 2 年度）

項 目		年平均値				
		H28	H29	H30	R1	R2
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.011	0.018	0.014	0.012	0.015

注) 環境基準：年平均値が 0.6pg-TEQ/m³以下であること

出典：「ダイオキシン類環境調査結果 平成 28 年度～令和 2 年度」（岡山県環境管理課）

3. 騒音

(1) 騒音の現況

「令和3年版岡山県環境白書2021」及び「笠岡市の環境保全 令和3年度版」によると、調査対象地域において、環境騒音、自動車騒音及び新幹線鉄道騒音について測定を行っている。

1) 一般地域（道路に面する地域以外の地域）の騒音

調査対象地域における令和2年度の環境騒音の測定地点及び測定結果は表3-1.11に示すとおりである。環境騒音は、笠岡市富岡（西約3.5km）、笠岡市今立（北西約4.2km）、笠岡市中央町（西北西約5.5km）、笠岡市横島（西南西約4.0km）、笠岡市旭が丘（西北西約7.8km）、笠岡市六番町（西約5.0km）の計6地点で測定を行っている。（括弧内は、対象事業実施区域を中心とした方角と距離を示す。）

令和2年度の測定結果は、いずれの地点もすべての時間区分において環境基準を達成していた。

表3-1.11 一般地域（道路に面する地域以外の地域）の騒音測定結果（令和2年度）

測定地点	地域類型	測定結果（dB）		環境基準達成状況	
		昼間	夜間	昼間	夜間
笠岡市富岡	A	46	40	○	○
笠岡市今立	B	49	40	○	○
笠岡市中央町	C	50	43	○	○
笠岡市横島	B	47	43	○	○
笠岡市旭が丘	A	42	35	○	○
笠岡市六番町	C	47	40	○	○

注) 環境基準

地域類型A、B：昼間55dB以下、夜間：45dB以下

地域類型C：昼間60dB以下、夜間50dB以下

出典：「令和3年版岡山県環境白書2021」（令和3年、岡山県環境企画課）、「笠岡市の環境保全 令和3年度版」（令和3年、笠岡市環境課）

2) 道路に面する地域の騒音

調査対象地域における令和2年度の自動車騒音の測定地点及び測定結果は表3-1.12に示すとおりである。自動車騒音は、笠岡市及び浅口市において計10地点で測定を行っている。

令和2年度の測定結果は、浅口市金光町佐方においていずれの時間区分も環境基準を達成していなかった。その他の地点では、地域類型の指定があるものについては、いずれの時間区分も環境基準を達成していた。

表 3-1.12 道路に面する地域の騒音測定結果（令和 2 年度）

測定地点	対象道路名	地域類型	測定結果（dB）		環境基準達成状況	
			昼間	夜間	昼間	夜間
笠岡市笠岡	笠岡井原線	B	69	63	○	○
浅口市鴨方町小坂西	山陽自動車道	—	50	48	—	—
浅口市金光町占見新田	倉敷笠岡線	B	65	61	○	○
浅口市鴨方町小坂西	里庄地頭上線	—	67	59	—	—
浅口市金光町上竹	山陽自動車道	—	73	73	—	—
浅口市金光町佐方	一般国道 2 号	C	73	72	×	×
浅口市金光町佐方	一般国道 2 号	C	71	71	×	×
浅口市金光町大谷	一般国道 2 号 (玉島・笠岡道路)	—	51	43	—	—
浅口市鴨方町六条院中	矢掛寄島線	—	67	58	—	—
浅口市金光町下竹	本庄玉島線	—	64	57	—	—

注) 騒音に係る環境基準（道路に面する地域）の地域の区分の中で、幹線交通を担う道路に近接する空間の基準値は、昼間 70dB 以下、夜間 65dB 以下である。

出典：「令和 3 年版岡山県環境白書 2021」（令和 3 年、岡山県環境企画課）

3) 新幹線鉄道騒音

調査対象地域における令和 2 年度の新幹線鉄道騒音の測定場所及び測定結果は表 3-1.13 に示すとおりである。新幹線鉄道騒音は笠岡市有田（西北西約 9.5km）、浅口市鴨方町地頭上（北北東約 6.2km）の計 2 地点で測定を行っている。（括弧内は、対象事業実施区域を中心とした方角と距離を示す。）

令和 2 年度の測定結果は、いずれの地点も環境基準を達成していなかった。

表 3-1.13 新幹線鉄道騒音測定結果（令和元年度）

測定場所	地域の類型	測定結果（dB）
笠岡市有田	I	76
浅口市鴨方町地頭上	I	76

注) 1. 騒音に係る環境基準（新幹線鉄道騒音）の類型 I の基準値は、70dB 以下である。

2. 幹線より 25m の位置での測定値。

出典：「令和 3 年版岡山県環境白書 2021」（令和 3 年、岡山県環境企画課）

(2) 騒音規制の状況

「令和3年版岡山県環境白書2021」によると、調査対象地域に含まれる笠岡市、浅口市、里庄町の「騒音規制法」に基づく工場・事業場数及び届出施設数は表3-1.14に示すとおりである。これによると、令和3年3月31日現在で工場・事業場数は184カ所(2市1町合計)、施設数は1,409カ所(2市1町合計)となっている。

また、笠岡市、浅口市及び里庄町における騒音及び振動の苦情状況は表3-1.15に示すとおりである。

表3-1.14 騒音に係る特定施設の届出状況

市町	工場・事業場数	施設数
笠岡市	116	886
浅口市	29	210
里庄町	39	313

注) 令和3年3月31日現在の値である。

出典:「令和3年版岡山県環境白書2021」(令和3年、岡山県環境企画課)

表3-1.15 騒音及び振動の苦情状況

単位:件

市名	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
笠岡市	4	1	—	2	2
浅口市	—	—	1	1	—
里庄町	—	—	1	—	—

注)「岡山県統計年報」では、騒音と振動の苦情件数を「騒音及び振動」という一つの項目で公表している。

出典:「令和元年 岡山県統計年報」(岡山県統計分析課)

4. 振動

(1) 振動の現況

「令和3年版岡山県環境白書2021」によると、調査対象地域では新幹線鉄道振動について測定を行っている。

1) 新幹線鉄道振動

調査対象地域における令和2年度の新幹線鉄道振動の測定場所及び測定結果は表3-1.16に示すとおりである。新幹線鉄道振動は笠岡市有田(西北西約9.5km)、浅口市鴨方町地頭上(北北東約6.2km)の計2地点で測定を行っている。

表 3-1.16 新幹線鉄道振動測定結果（令和 2 年度）

測定場所	測定結果（dB）
笠岡市有田	50
浅口市鴨方町地頭上	60

注）幹線より 25m の位置での測定値。

出典：「令和 3 年版岡山県環境白書 2021」（令和 3 年、岡山県環境企画課）

（2） 振動規制の状況

「令和 3 年版岡山県環境白書 2021」によると、調査対象地域に含まれる笠岡市、浅口市、里庄町の「振動規制法」に基づく工場・事業場数及び届出施設数は表 3-1.17 に示すとおりである。これによると、令和 3 年 3 月 31 日現在で工場・事業場数は 134 カ所（2 市 1 町合計）、施設数は 1,095 カ所（2 市 1 町合計）となっている。

表 3-1.17 振動に係る特定施設の届出状況

市町	工場・事業場数	施設数
笠岡市	85	838
浅口市	17	113
里庄町	32	144

注）令和 3 年 3 月 31 日現在の値である。

出典：「令和 3 年版岡山県環境白書 2021」（令和 3 年、岡山県環境企画課）

5. 悪臭

(1) 悪臭の状況

「令和3年版岡山県環境白書2021」及び「笠岡市の環境保全 令和3年度版」によると、調査対象地域において、悪臭の測定は行われていない。

出典：「令和3年版岡山県環境白書2021」（令和3年、岡山県環境企画課）、「笠岡市の環境保全 令和3年度版」（令和3年、笠岡市環境課）

(2) 悪臭規制の状況

「悪臭規制のあらまし」（平成31年、岡山県）によると、調査対象地域は、悪臭防止法（昭和46年法律第91号）に基づく規制地域に指定されており、事業活動に伴い発生する特定悪臭物質（22項目）について、項目ごとに規制基準が設けられている。

また、笠岡市、浅口市及び里庄町における悪臭の苦情件数は表3-1.18に示すとおりである。

表3-1.18 悪臭の苦情状況

単位：件

市名	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
笠岡市	2	6	2	3	—
浅口市	1	—	—	—	—
里庄町	2	—	8	—	—

出典：「令和元年 岡山県統計年報」（岡山県統計分析課）

3-1-2 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

1. 水象

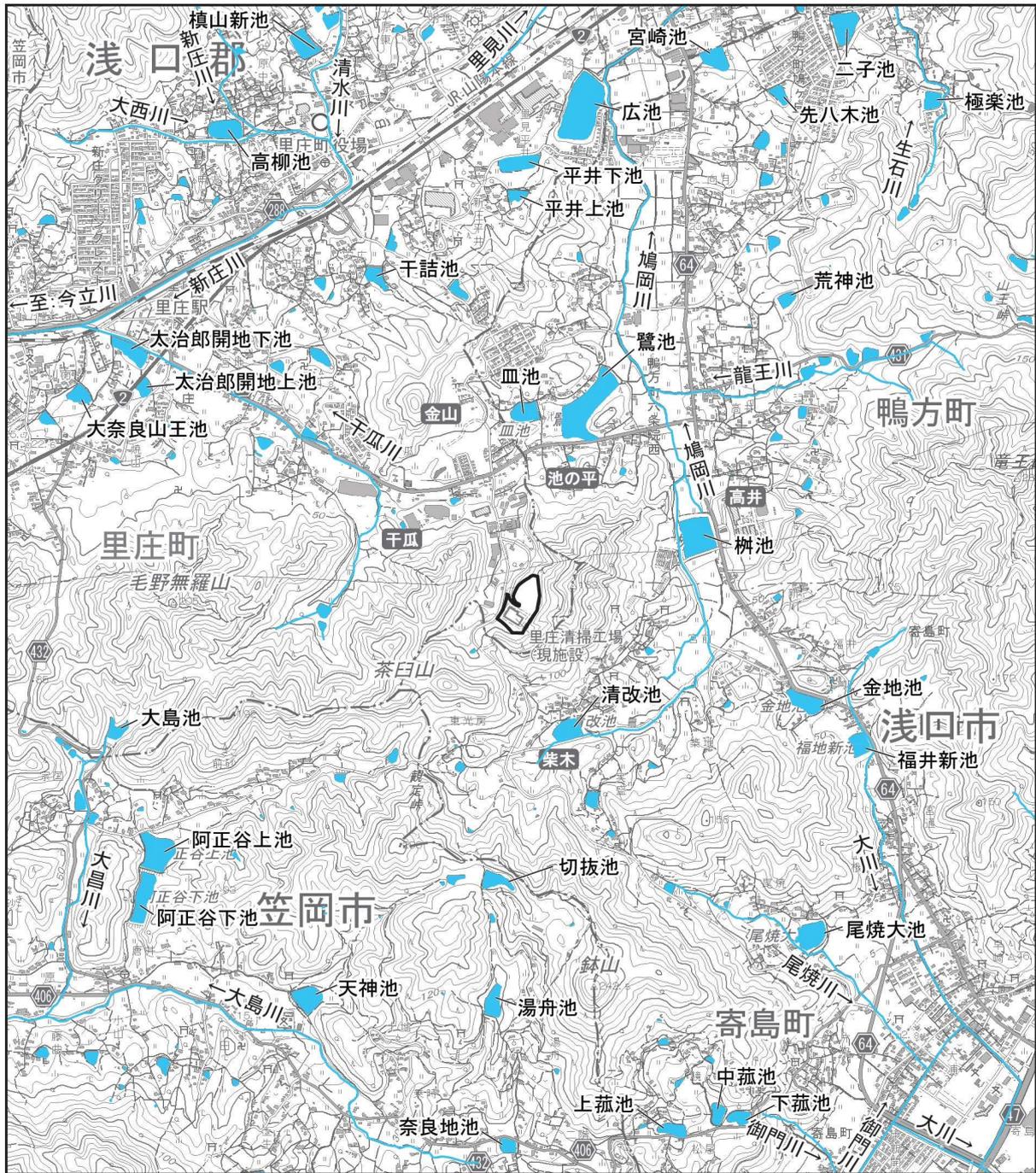
対象事業実施区域周囲の河川の概要を表 3-1.19 に、河川・ため池の分布状況を図 3-1.8 に示す。

対象事業実施区域は、干瓜川流域内に位置する。干瓜川は、新庄川を経て今立川に合流して瀬戸内海へ流入する。

表 3-1.19 河川の概要

河川区分	水系名	河川名	流域面積	河川延長
二級河川	里見川	里見川	81.2 km ²	45.4 km
二級河川		鳩岡川		
普通河川		生石川		
普通河川		龍王川		
二級河川	大島川	大島川	—	3.9km
普通河川		大昌川		
二級河川	今立川	新庄川	3.3 km ² (今立川流域に含まれる)	7.9km
普通河川		干瓜川	—	
普通河川		清水川		
普通河川		大西川		
普通河川	—	大川	—	—
普通河川		尾焼川		
普通河川		御門川		

出典：「国土数値情報 河川データ」(国土交通省)、「岡山の「河川」概要」(岡山県河川課ホームページ)、「里見川水系河川整備基本方針」(平成 24 年、岡山県河川課)、「今立川水系河川整備計画」(平成 20 年、岡山県河川課)



凡 例



対象事業実施区域

河川

ため池



SCALE 1 : 25,000



この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。

出典：「砂防指定地台帳」（岡山県）、「おかやま全県統合型 GIS 農業農村情報」（岡山県）

図 3-1.8 河川・ため池の分布状況

2. 水質

(1) 河川水質

1) 生活環境項目及び健康項目

調査対象地域における河川水質の測定地点を図 3-1.9 に、測定結果を表 3-1.20 及び表 3-1.21 に示す。

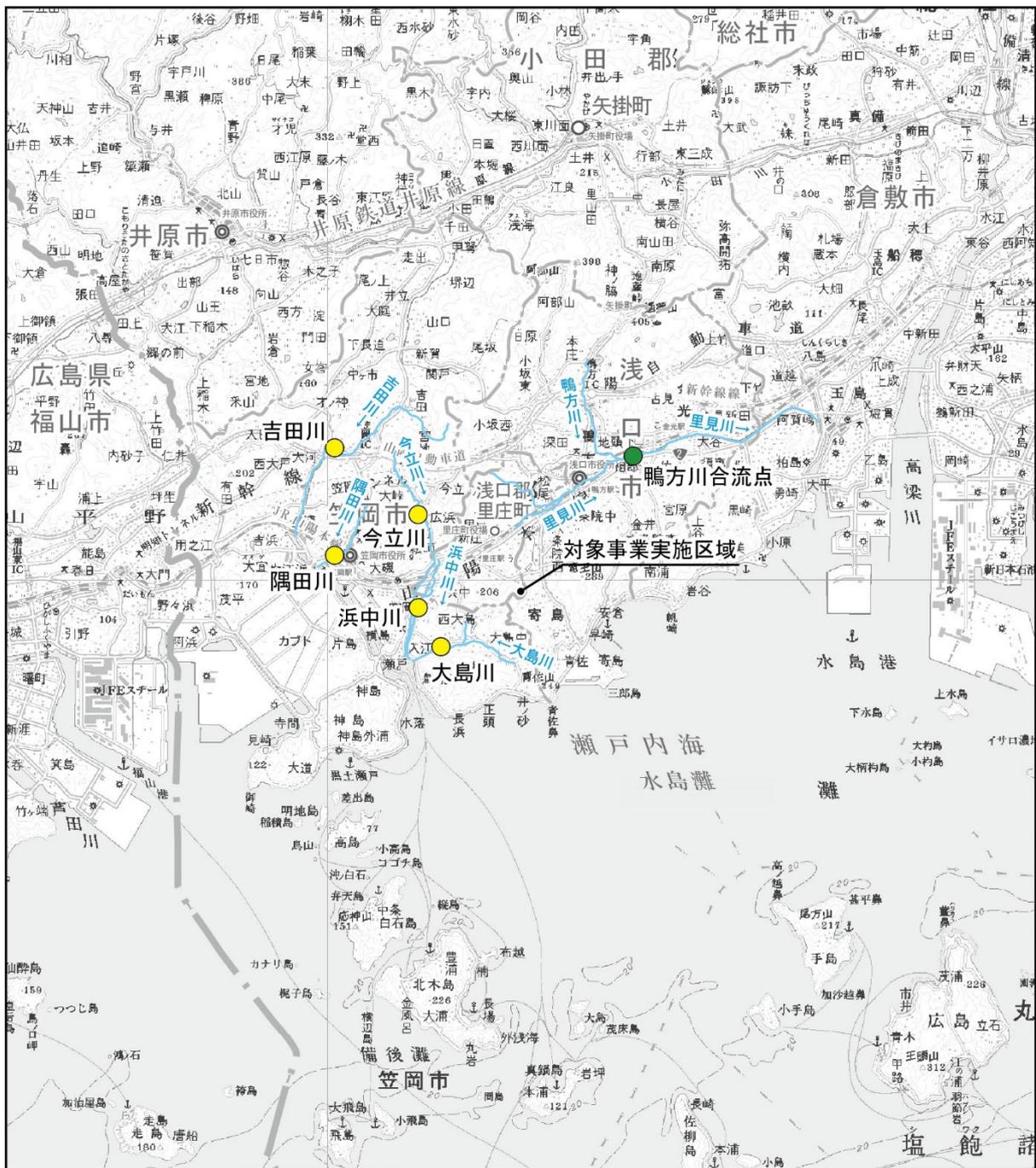
周囲の河川では、里見川が環境基準の河川D類型に指定されている。令和2年度の生活環境項目及び健康項目の測定結果はすべて環境基準を達成していた。なお、笠岡市において水質の測定が行われている5河川には類型指定がなされていない。

2) ダイオキシン類

調査対象地域では、「ダイオキシン類対策特別措置法」(平成11年法律第105号)第26条第1項に基づき、河川水におけるダイオキシン類の測定を実施している。測定地点を図 3-1.10 に、測定結果を表 3-1.22 に示す。平成28年度から令和2年度の測定結果はすべて環境基準を達成していた。

(2) 底質

調査対象地域では、「ダイオキシン類対策特別措置法」(平成11年法律第105号)第26条第1項に基づき、河川の底質におけるダイオキシン類の測定を実施している。測定地点を図 3-1.10 に、測定結果を表 3-1.23 に示す。平成28年度から令和2年度の測定結果はすべて環境基準を達成していた。

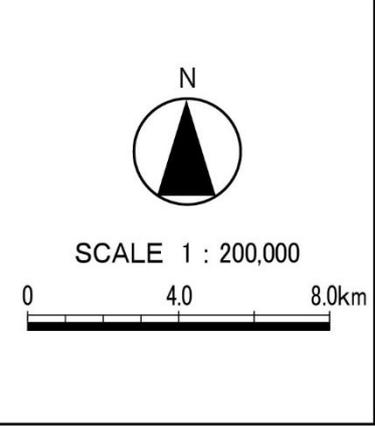


凡 例

- 対象事業実施区域
- 岡山県公共用水域水質測定地点
(生活環境項目、健康項目)
- 笠岡市公共用水域水質測定地点
(生活環境項目)

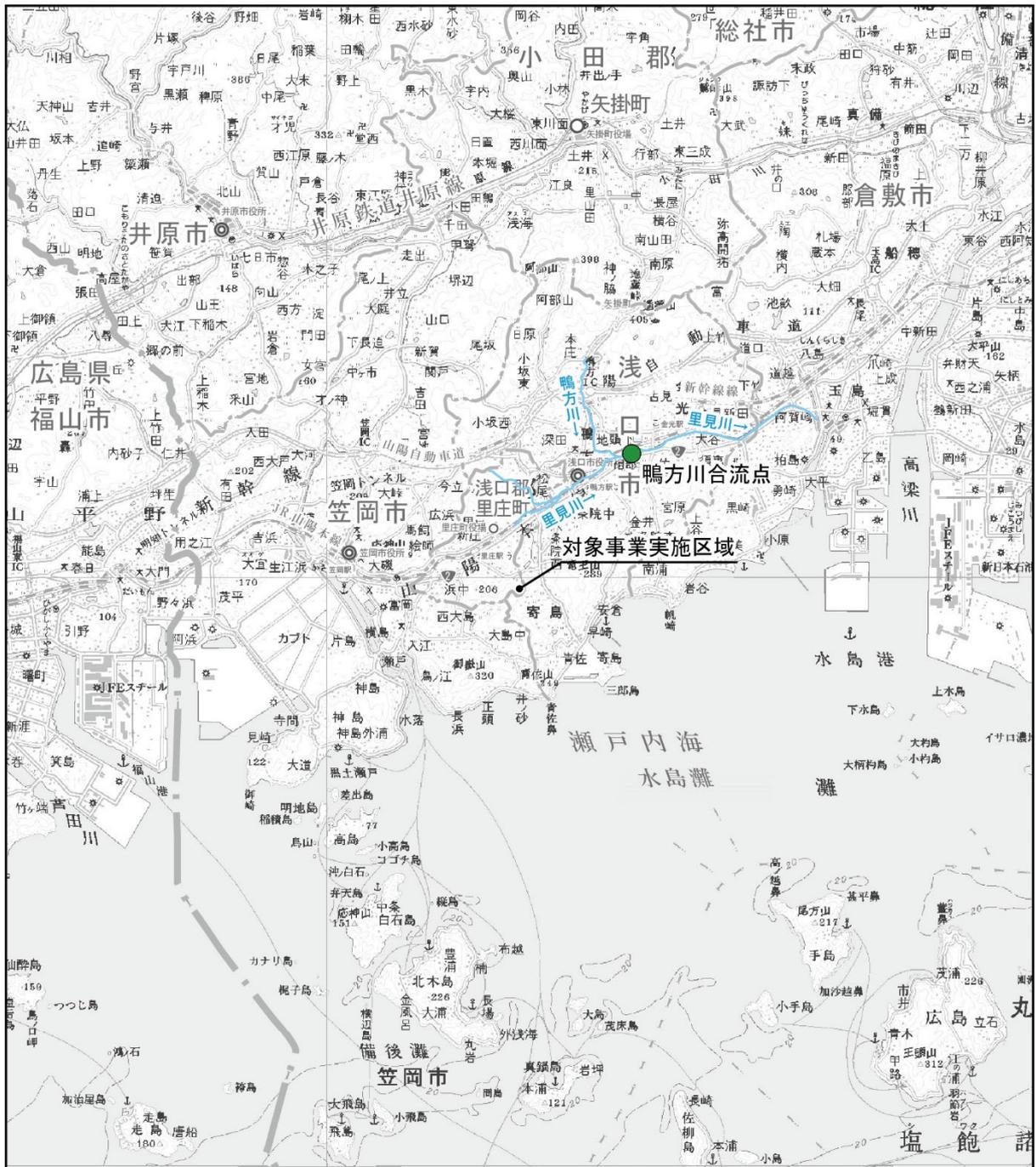
※海域は除く

この地図は、国土地理院発行の20万分1地勢図をもとに作成した。



出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(岡山県環境管理課)、「笠岡市の環境保全 令和3年度版」(令和3年、笠岡市環境課)

図 3-1.9 水質測定地点位置図

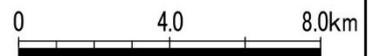


凡 例

- 対象事業実施区域
- ダイオキシン類測定地点（河川水、底質）



SCALE 1 : 200,000



この地図は、国土院発行の20万分1地勢図をもとに作成した。

出典：「ダイオキシン類環境調査結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境管理課）

図 3-1.10 ダイオキシン類（河川水、底質）調査地点位置図

表 3-1.20 岡山県公共用水域水質測定結果（令和 2 年度）

項目	測定地点名		河川	環境基準
			里見川	
			鴨方川 合流点	
生活環境項目	水素イオン濃度 (pH)	(-)	8.6	6.0~8.5
	溶存酸素 (DO)	(mg/L)	12	2 以上
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	(mg/L)	2.6 (3.0)	8 以下
	化学的酸素要求量 (COD)	(mg/L)	-	-
	浮遊物質 (SS)	(mg/L)	7	100 以下
	全亜鉛	(mg/L)	0.009	-
	大腸菌群数	(MPN/100mL)	4,500	-
	全窒素	(mg/L)	-	-
	全りん	(mg/L)	-	-
	ノニルフェノール	(mg/L)	<0.00006	-
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	(mg/L)	0.0083	-
健康項目	カドミウム	(mg/L)	<0.0003	0.003 以下
	全シアン	(mg/L)	ND	検出されないこと
	鉛	(mg/L)	<0.005	0.01 以下
	六価クロム	(mg/L)	<0.02	0.05 以下
	ヒ素	(mg/L)	<0.005	0.01 以下
	総水銀	(mg/L)	<0.0005	0.0005 以下
	アルキル水銀	(mg/L)	ND	検出されないこと
	ポリ塩化ビフェニル (PCB)	(mg/L)	ND	検出されないこと
	ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	0.02 以下
	四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	0.002 以下
	1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	0.004 以下
	1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.002	0.1 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	0.04 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0005	1 以下
	1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	0.006 以下
	トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	0.01 以下
	テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	0.01 以下
	1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	0.002 以下
	チウラム	(mg/L)	<0.0006	0.006 以下
	シマジン	(mg/L)	<0.0003	0.003 以下
	チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	0.02 以下
	ベンゼン	(mg/L)	<0.001	0.01 以下
	セレン	(mg/L)	<0.002	0.01 以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	(mg/L)	0.43	10 以下
	ふっ素	(mg/L)	0.30	0.8 以下
	ほう素	(mg/L)	0.03	1 以下
1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.005	0.05 以下	

注) 表中の値は平均値である。ただし、BOD の () 内の数値は 75% 値を記載している。ND は報告下限値を下回ったことを表す。

出典: 「水質汚濁に係る環境基準」(昭和 46 年環境庁告示第 59 号)、「令和 2 年度公共用水域水質測定結果」(岡山県環境管理課)

表 3-1.21 笠岡市河川水質調査結果（令和 2 年度）

項目	測定地点名	河川					
		今立川水系					
		吉田川	隅田川	今立川	浜中川	大島川	
生活環境項目	水素イオン濃度 (pH)	(-)	7.9	8.1	8.1	8.0	7.9
	溶存酸素 (DO)	(mg/L)	12.0	13.2	12.4	12.0	12.3
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	(mg/L)	1.6 (2.0)	4.7 (6.0)	1.6 (2.0)	1.7 (1.9)	1.5 (1.7)
	浮遊物質 (SS)	(mg/L)	3.5	3.9	5.8	2.8	4.9

注) 表中の値は年平均値である。BOD の () 内の数値は、75% 値を示す。

出典：「水質汚濁に係る環境基準」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）、「笠岡市の環境保全 令和 3 年度版」（令和 3 年、笠岡市環境課）

表 3-1.22 ダイオキシン類（河川水）測定結果

項目	測定地点	H28	H29	H30	R1	R2	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	鴨方川合流点	0.091	0.041	0.17	0.16	0.067	1 以下

出典：「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質汚染を含む。）及び土壌汚染に係る環境基準について」（平成 11 年環境庁告示第 68 号）、「ダイオキシン類環境調査結果 平成 28 年度～令和 2 年度」（岡山県環境管理課）

表 3-1.23 ダイオキシン類（底質）測定結果

項目	測定地点	H28	H29	H30	R1	R2	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	鴨方川合流点	0.095	0.096	0.084	0.20	0.081	150 以下

出典：「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質汚染を含む。）及び土壌汚染に係る環境基準について」（平成 11 年環境庁告示第 68 号）、「ダイオキシン類環境調査結果 平成 28 年度～令和 2 年度」（岡山県環境管理課）

(3) 地下水水質

1) 地下水水質環境基準項目

調査対象地域における地下水水質環境基準項目の測定地点を図 3-1.11 に示す。また、令和 2 年度の測定結果を表 3-1.24 に示す。

測定結果は、笠岡市中央町のひ素が環境基準を上回った。その他の項目はすべての地点で環境基準を達成していた。

2) ダイオキシン類

調査対象地域では、「ダイオキシン類対策特別措置法」(平成 11 年法律第 105 号) 第 26 条第 1 項に基づき、地下水におけるダイオキシン類の測定を実施している。測定地点を図 3-1.12 に、測定結果を表 3-1.25 に示す。測定結果はすべての測定年で環境基準を達成していた。



凡 例

- 対象事業実施区域
- 地下水水質測定地点

N



SCALE 1 : 200,000

0 4.0 8.0km



この地図は、国土地理院発行の20万分1地勢図をもとに作成した。

出典：「令和2年度地下水の水質測定結果」（岡山県環境管理課）

図 3-1.11 地下水水質測定地点位置図

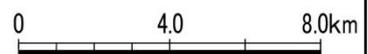


凡 例

- 対象事業実施区域
- ダイオキシン類測定地点 (地下水)



SCALE 1 : 200,000



この地図は、国土地理院発行の20万分1地勢図をもとに作成した。

出典：「ダイオキシン類環境調査結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境管理課）

図3-1.12 ダイオキシン類（地下水）調査地点位置図

表 3-1.24 地下水水質測定結果（令和 2 年度）

項目	測定地点名	地下水			環境基準
		笠岡市 中央町	浅口市 金光町須恵	里庄町 里見	
		浅井戸	不明	不明	
カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
全シアン	(mg/L)	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
六価クロム	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	0.05 以下
ヒ素	(mg/L)	0.011	<0.005	<0.005	0.01 以下
総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	(mg/L)	ND	ND	ND	検出されないこと
ポリ塩化ビフェニル (PCB)	(mg/L)	ND	ND	ND	検出されないこと
ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
塩化ビニルモノマー	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
ベンゼン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	(mg/L)	0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	(mg/L)	2.8	8.2	4.7	10 以下
ふっ素	(mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	0.8 以下
ほう素	(mg/L)	0.12	<0.03	<0.03	1 以下
1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

注) ND は報告下限値を下回ったことを表す。

出典:「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」(平成 9 年環境庁告示第 10 号)、「令和 2 年度地下水の水質測定結果」(岡山県環境管理課)

表 3-1.25 ダイオキシン類（地下水）測定結果

項目	測定地点	H28	H29	H30	R1	R2	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	笠岡市茂平	—	—	—	—	—	1 以下
	笠岡市走出	—	0.016	—	—	—	
	笠岡市今立	—	—	—	0.048	—	
	浅口市寄島町	—	—	—	—	—	
	浅口市鴨方町 六条院中	—	0.018	—	—	—	
	浅口市金光町大谷	—	—	—	0.050	—	
	里庄町大字里見	0.015	—	0.016	—	0.043	

注)「—」は測定されていないことを示す。

出典：「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質汚染を含む。）及び土壌汚染に係る環境基準について」（平成 11 年環境庁告示第 68 号）、「ダイオキシン類環境調査結果 平成 28 年度～令和 2 年度」（岡山県環境管理課）

3-1-3 土壌、地盤及び日照等の状況

1. 土壌

(1) 表層土壌

対象事業実施区域及びその周囲の土壌の状況を図 3-1.13 に示す。

「土地分類基本調査（土壌図）」（昭和 58 年、国土庁）によると、低地部は主に粗粒低地土壌または灰色低地土壌、丘陵部は主に黄色土壌または粗粒残積未熟土壌が分布している。

対象事業実施区域北側は黄色土壌、南側は粗粒残積未熟土壌に区分される。

出典：「5 万分の 1 土壌図（玉島・福山・寄島・仁尾）」（昭和 58 年、国土庁）

(2) 土壌汚染

1) 土壌汚染の状況

対象事業実施区域周囲では、「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成 11 年法律第 105 号）第 26 条第 1 項に基づき、土壌におけるダイオキシン類の測定を実施している。測定地点を図 3-1.14 に、測定結果を表 3-1.26 に示す。測定結果はすべての測定地点で環境基準を達成していた。

表 3-1.26 ダイオキシン類（土壌）測定結果

項目	測定地点	H28	H29	H30	R1	R2	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	笠岡東公民館	—	—	—	0.38	—	1,000 以下
	浅口市立六条院小学校	—	0.011	—	—	—	
	浅口市立金光竹小学校	—	—	—	0.012	—	
	里庄町立里庄中学校	0.22	—	—	—	—	
	里庄町立里庄東小学校	—	—	—	—	0.020	
	里庄町立里庄西小学校	—	—	0.38	—	—	

出典：「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質汚染を含む。）及び土壌汚染に係る環境基準について」（平成 11 年環境庁告示第 68 号）、「ダイオキシン類環境調査結果 平成 28 年度～令和 2 年度」（岡山県環境管理課）

2) 土壌汚染対策法に基づく区域指定の状況

「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号）により、土壌汚染状況調査や汚染の除去等の措置等について規定されている。また、「岡山県環境への負荷の低減に関する条例」（平成 13 年岡山県条例第 76 号）では、有害物質取扱事業所の設置者に対し、土壌汚染、地下水汚染を発見した際の届出義務を課している。対象事業実施区域及びその周囲の笠岡市、浅口市及び里庄町には同法第 6 条に基づく要措置区域及び第 11 条に基づく形質変更時要届出区域の指定はない。

出典：「要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定状況について」（令和 2 年 10 月 27 日時点、岡山県環境管理課ホームページ）

2. 地盤

(1) 地盤沈下

「全国地盤環境情報ディレクトリ（令和元年度版）」によると、対象事業実施区域及びその周囲において、地盤沈下に関する被害等の発生は認められない。

出典：「全国地盤環境情報ディレクトリ（令和元年度版）」（環境省ホームページ）

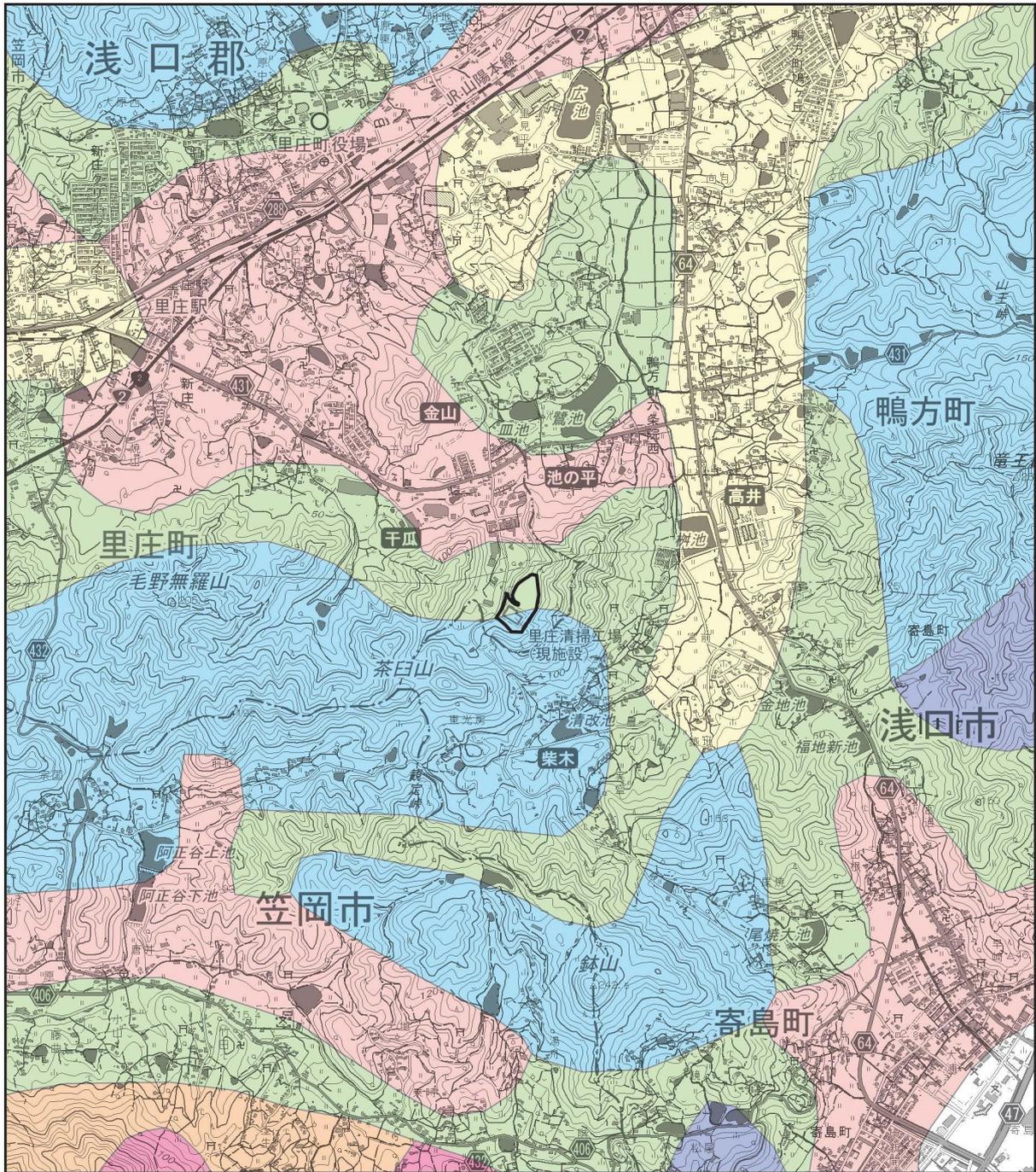
(2) 地下水位

対象事業実施区域及びその周囲において、地下水位の測定は実施されていない。

3. 日照

現施設は煙突高さ 59.0m（建物高さ 31.15m）であり、標高 92.5m の山間部に位置している。施設の北側を除き周囲は山に囲まれており、隣接して住居等も存在しないため、施設の存在による日影の影響は認められない。

また、対象事業実施区域周囲において、日照阻害に関する既存資料はない。



凡 例



対象事業実施区域

- | | |
|---|--|
|  粗粒残積性未熟土壌 |  岩石地 |
|  乾性褐色森林土壌（黄褐系） |  灰色低地土壌 |
|  褐色森林土壌（黄褐系） |  粗粒灰色低地土壌 |
|  黄色土壌 | |



SCALE 1 : 25,000



この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。

注) 着色されてない地域は市街地を示す。

出典：「5万分の1土壌図（玉島・福山・寄島・仁尾）」（昭和58年、国土庁）

図 3-1.13 土壌図



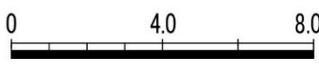
凡 例

- 対象事業実施区域
- ダイオキシン類測定地点（土壌）

N



SCALE 1 : 200,000



この地図は、国土地理院発行の20万分1地勢図をもとに作成した。

出典：「ダイオキシン類環境調査結果 平成28年度～令和2年度」（岡山県環境管理課）

図3-1.14 ダイオキシン類（土壌）調査地点位置図

3-1-4 地形及び地質の状況

1. 地形

対象事業実施区域及びその周囲の地形分類図を図 3-1. 15 に示す。

「土地分類基本調査（地形分類図）」（昭和 58 年、国土庁）によると、対象事業実施区域及びその周囲の地形は、小規模な山地・丘陵地（小起伏山地、大起伏丘陵地、小起伏丘陵地）と低地（扇状地性低地）が入り組んだ地形となっている。

なお、対象事業実施区域は、大起伏丘陵地に位置する。

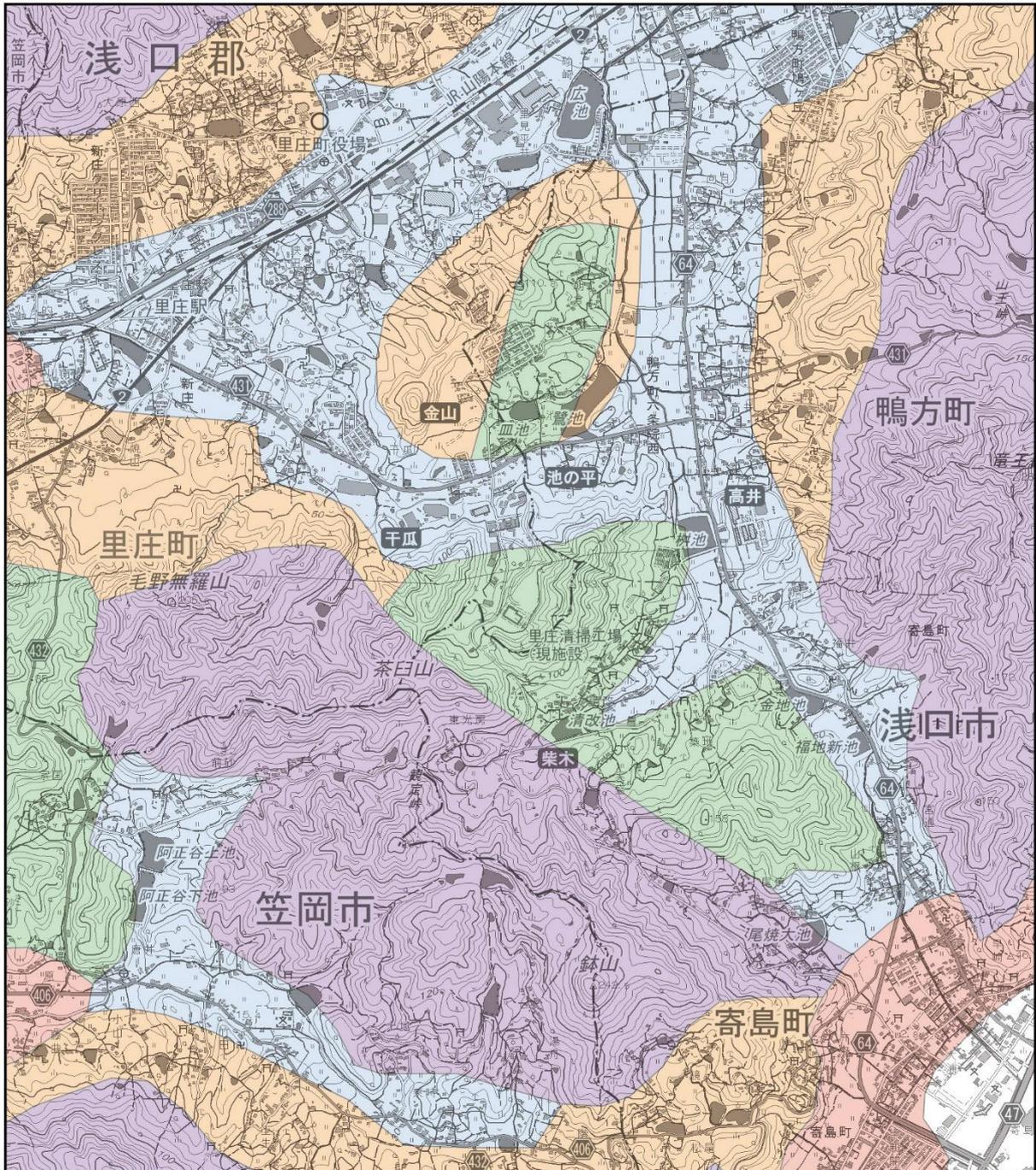
出典：「20 万分の 1 地形分類図（玉島・福山・寄島・仁尾）」（昭和 48 年、国土庁）

2. 地質

対象事業実施区域及びその周囲の表層地質図を図 3-1. 16 に示す。

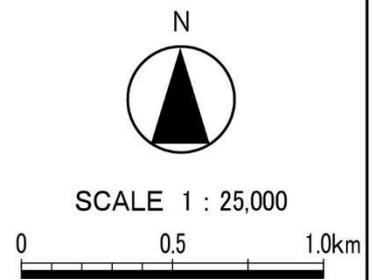
「土地分類基本調査（表層地質図）」（昭和 58 年、国土庁）によると、対象事業実施区域の表層地質は泥岩であり、東側地域は花崗岩質岩石となっている。また、低地部の表層地質は礫・砂である。

出典：「20 万分の 1 表層地質図（玉島・福山・寄島・仁尾）」（昭和 48 年、国土庁）



凡 例

-  対象事業実施区域
-  小起伏山地
-  大起伏丘陵地
-  小起伏丘陵地
-  扇状地性低地
-  三角州性低地

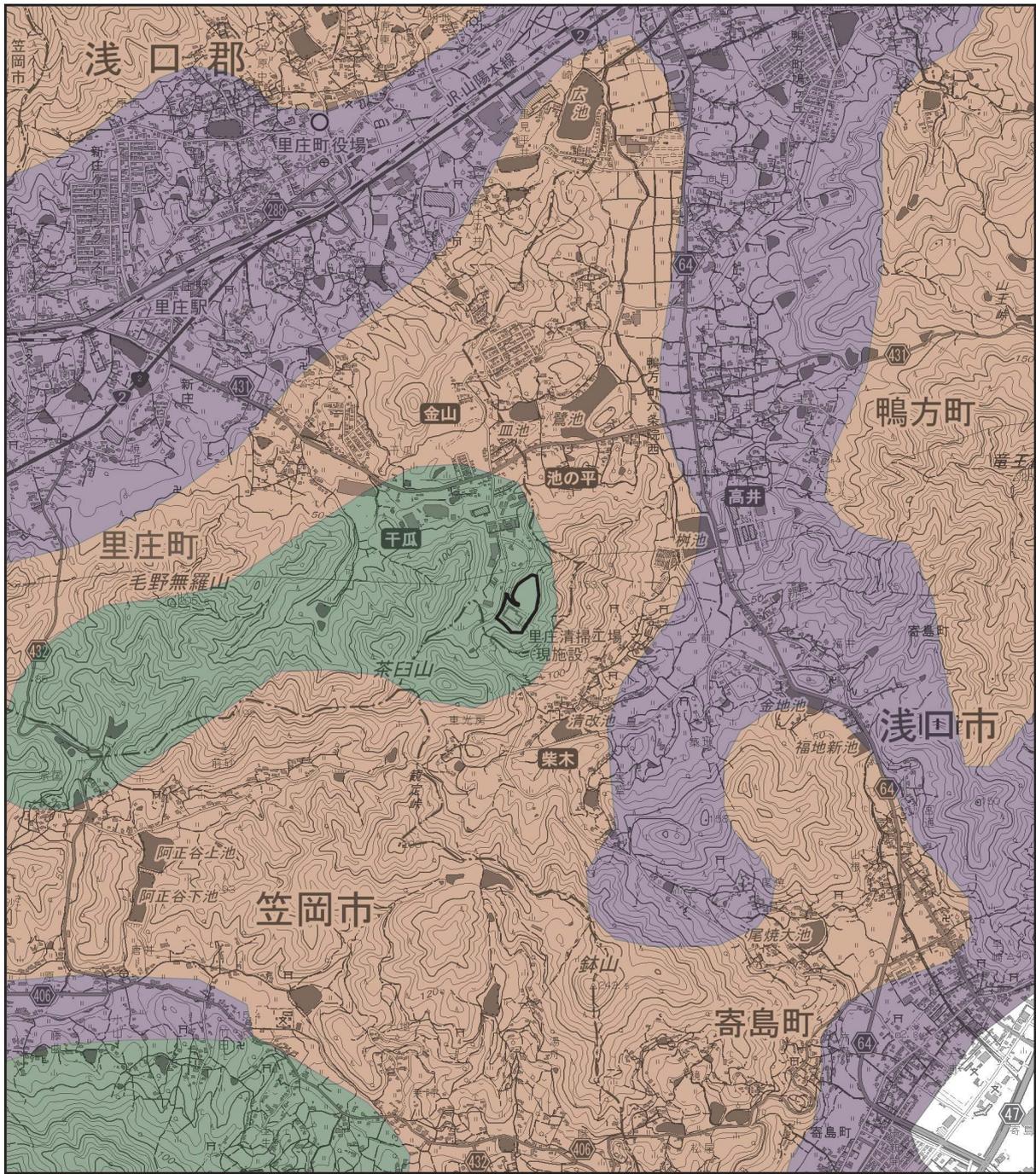


この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。

注) 着色されてない地域は干拓地を示す。

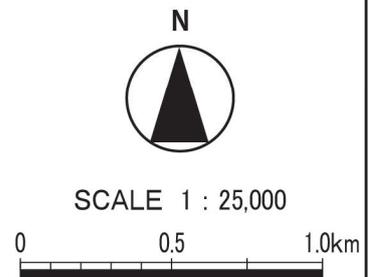
出典：「20 万分の 1 地形分類図（玉島・福山・寄島・仁尾）」（昭和 48 年、国土庁）

図 3-1.15 地形分類図



凡 例

-  対象事業実施区域
-  礫・砂
-  泥岩
-  花崗岩質岩石



この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。

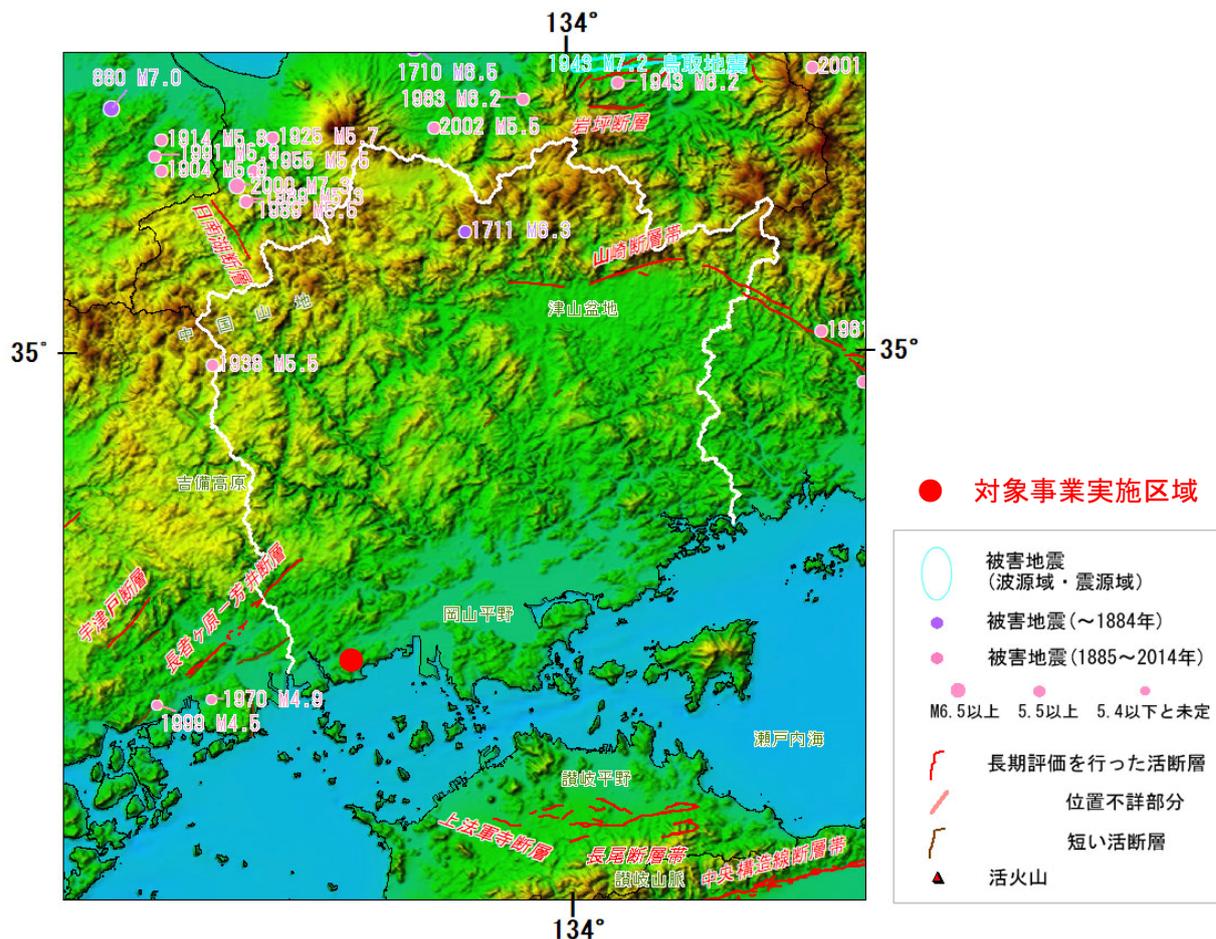
注) 着色されていない地域は干拓地を示す。

出典: 「20 万分の 1 表層地質図 (玉島・福山・寄島・仁尾)」(昭和 48 年、国土庁)

図 3-1.16 表層地質図

3. 活断層の状況

「岡山県の地震活動の特徴」(文部科学省地震・防災研究課)によると、対象事業実施区域に最も近い活断層として、図 3-1.17 に示すとおり、対象事業実施区域北西約 20 km に位置する長者ヶ原一芳井断層が確認されている。この断層による将来の地震発生の可能性として、地震の規模が M7.3 程度、地震発生確率は不明とされている。



出典：「岡山県の地震活動の特徴」(文部科学省地震・防災研究課)

図 3-1.17 岡山県とその周囲の主な被害地震

4. 学術上重要な地形及び地質

重要な地形及び地質の選定基準は、表 3-1.27 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲には、該当する学術上重要な地形及び地質は存在しない。

表 3-1.27 学術上重要な地形及び地質の選定基準

番号	法律及び文献	選定基準及びランク
1	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	国指定特別天然記念物 国指定天然記念物 県指定天然記念物 市指定天然記念物 町指定天然記念物
2	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成 4 年条約第 7 号)	登録自然遺産
3	「自然環境保全法」(昭和 47 年法律第 85 号)	自然環境保全地域
3	「日本の地形レッドデータブック 第 1 集－危機にある地形－」(平成 12 年、小泉武栄・青木賢人) 及び「日本の地形レッドデータブック 第 2 集－保存すべき地形－」(平成 14 年、小泉武栄・青木賢人)	1 : 日本の自然を代表する典型的かつ希少、貴重な地形 2 : 1 に準じ、地形学の教育上重要な地形もしくは地形学の研究の進展に伴って新たに注目したほうがよいと考えられる地形 3 : 多数存在するが、なかでも最も典型的な形態を示し、保存することが望ましい地形 4 : 動物や植物の生育地として重要な地形

3-1-5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1. 植物の状況

(1) 植生

調査対象地域における現存植生図は、図 3-1. 18 に示すとおりである。

「植生調査(植生自然度調査)」によると、調査対象地域の山地では落葉広葉樹のアベマキ-コナラ群集や常緑針葉樹のアカマツ群落が優先しており、対象事業実施区域周囲ではアベマキ-コナラ群集やネズ-アカマツ群落が分布している。北部から東部にかけての幹線道路沿いには市街地や住宅地、工場地帯が広がっており、河川周囲では水田雑草群落が分布する。

出典：「植生調査(植生自然度調査)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)

(2) 植物相

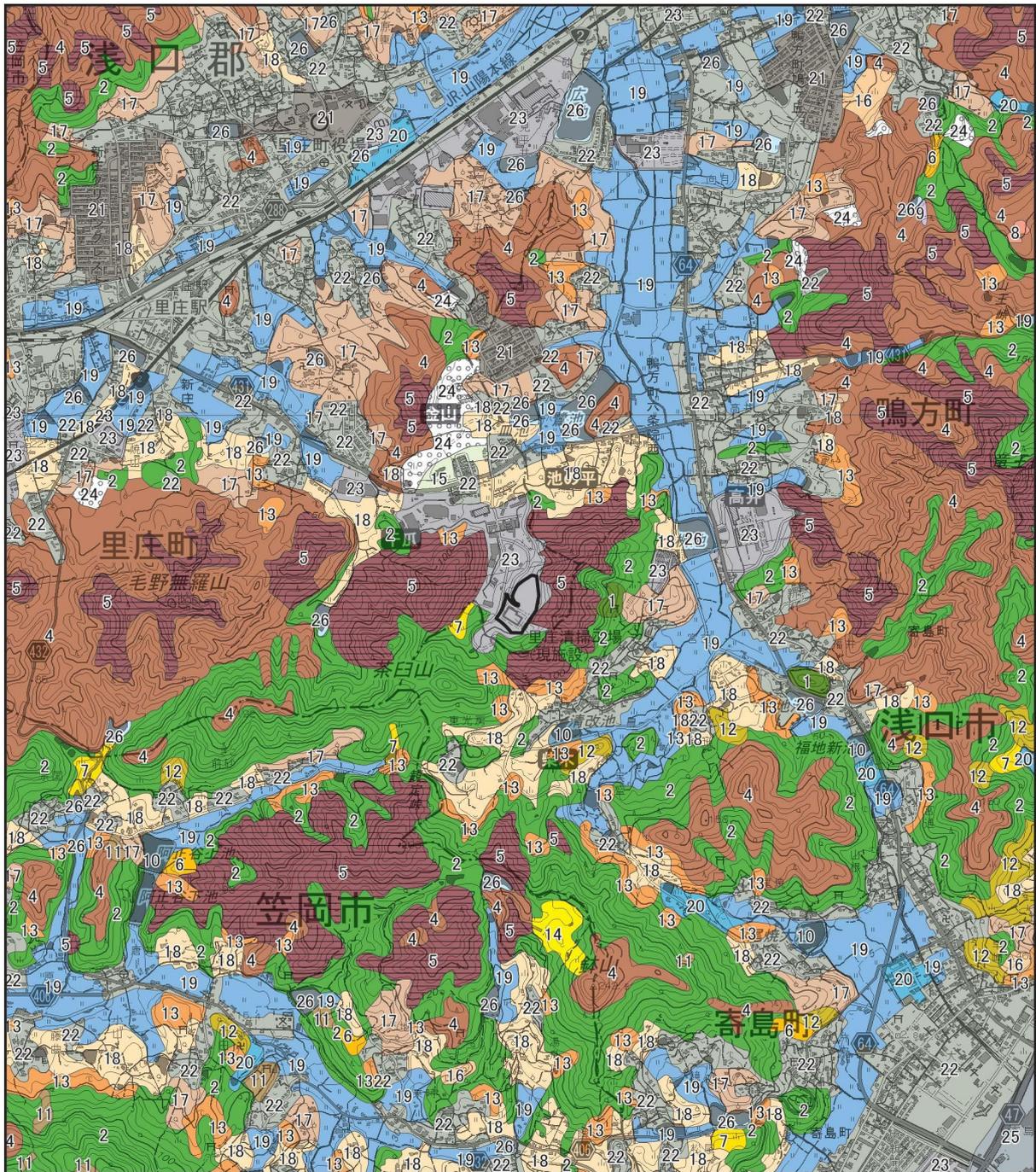
「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む岡山県南部に生育する維管束植物は、海浜性種(塩性湿地、干潟、海崖、砂浜、港湾、埋立地を主な生育環境区分とする種)を除き 165 科 1,989 種である。

調査対象地域は山地・丘陵地と低地が入り組んだ地形となっており、山地ではアベマキ、コナラ等の落葉広葉樹、ヤマモモ、ヒサカキ等の常緑広葉樹、アカマツ、ネズ等の針葉樹等多くの木本類が樹林を形成している。また、低地の河川や水田等の水辺では、キシウスズメノヒエやヌカキビ等の湿性草本が生育しているほか、マコモ、ヒメガマ等の抽水植物が確認されている。耕作放棄地等の草地環境では、チガヤやコセンダングサ、ヒメムカシヨモギ等、様々な草本類が生育している。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部(旧市町村区での清音村、山手村)、倉敷市、早島町、岡山市南部(旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町)、玉野市、瀬戸内市、備前市南部(旧市町村区での備前市、日生町)が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)



この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。
 出典：「植生調査（植生自然度調査）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

図 3-1.18 現存植生図

2. 動物の状況

(1) 動物相

1) 哺乳類

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する哺乳類は、7目16科35種であった。

丘陵地から低地に広く生息するタヌキやイタチ類、ニホンイノシシ等が生息している。その他、アブラコウモリ、オヒキコウモリ、カヤネズミ、アカネズミ等、多種類のコウモリ類、ネズミ類が確認されている。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

2) 鳥類

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する鳥類は、迷鳥、現在定着していない種及び確認例が少ない種を除き 12 目 46 科 163 種であった。

樹林や林で多く見られるアカゲラ、ヤブサメ、キビタキ等が確認されている。河川や溜め池では、マガモ、カルガモ等のカモ類やアオサギ、コサギ等のサギ類等、水鳥が多種類生息している。また、生態系の上位に位置するミサゴや、オオタカ等の猛禽類も確認されている。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

3) 爬虫類

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する爬虫類は、2 目 10 科 18 種であった。

樹林や林ではタワヤモリ等のヤモリ類、タカチホヘビ、ジムグリ等のヘビ類が見られ、平地の耕作地や草地では、ニホンカナヘビやシマヘビ、ヒバカリ等が確認されている。また、河川や湖沼等の水域では、ニホンイシガメやミシシippiaアカミミガメ等のカメ類が生息している。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

4) 両生類

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する両生類は、2目7科13種であった。山地から平地の樹林や沢では、セトウチサンショウウオやニホンアカガエル、カジカガエル等が確認されている。また、水田や水路、ため池等ではウシガエルやトノサマガエル、ヌマガエル等が生息している。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

5) 昆虫類・クモ類

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する昆虫類は 16 目 176 科 1,410 種、クモ類は 1 目 26 科 95 種であった。

樹林ではアブラゼミ、ツクツクボウシ等のセミ類やオオヒラタシデムシやコクワガタ等のコウチュウ類、ゴマダラチョウ、オオミズアオ等のチョウ類等が確認され、平地の草地や耕作地ではニシキリギリスやショウリョウバッタ等のバッタ類等が多種類生息している。また、河川や湖沼、水田等の湿地ではアジアイトトンボ、シオカラトンボ等のトンボ類が多く確認されている。さらに、コガタコガネグモやイオウイロハシリグモ等、様々な環境にクモ類が生息している。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

6) 魚類

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する魚類は、6 目 12 科 33 種であった。

生活型別にみると、ギンブナ、カワムツ、ナマズ等の純淡水魚が大半を占めており、ニホンウナギ、ヌマチチブ、シマヨシノボリ等の回遊魚もみられる。環境別にみると、止水域や緩流域を好むフナ類等、瀬などの流水を好むオイカワ等、底生魚のヨシノボリ類など様々な魚類が確認されている。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

7) 底生動物

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する底生動物は、汽水域に生息する種を除き 10 目 22 科 55 種であった。

湛水域や水田等の止水域や緩流域を好むマルタニシ、カワニナ等の貝類や、上流や溪流に生息するサワガニ、回遊性種のモクズガニ等のカニ類が確認されている。

注) 1. 本項では軟体動物及び甲殻類を底生動物として抽出し、水生昆虫類は 5) 昆虫類で取り扱う。

2. 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

8) 陸産貝類

「岡山県野生生物目録 2019」によると、調査対象地域を含む県南部において生息する陸産貝類は、5 目 24 科 82 種であった。

ヤマタニシやアズキガイ等の里山等の樹林環境に生息する種やトクサオカチョウジやチャコウラナメクジ等の市街地にも生息する種が確認されている。

注) 県南部は以下の地域を示す。

瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。」

出典：「岡山県野生生物目録 2019」（平成 31 年、岡山県自然環境課）

3. 重要な動植物の状況

重要な動植物の選定基準は表 3-1. 28 に示すとおりであり、調査対象地域で確認された種のうち重要な種に該当するものを選定した。

なお、重要な植物群落については「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）に基づく天然記念物を対象とした。

表 3-1.28 重要な種の選定基準

番号	法律及び文献	略称	選定基準及びランク
1	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	特天	特別天然記念物 (国指定)
		天	天然記念物 (国、県、市、町指定)
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国内	国内希少野生動植物種
		国外	国際希少野生動植物種
3	「岡山県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年岡山県条例第 64 号)	指定	指定希少野生動植物
4	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省ホームページ)	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR+EN	絶滅危惧 I 類
		CR	絶滅危惧 I A 類
		EN	絶滅危惧 I B 類
		VU	絶滅危惧 II 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
5	「岡山県版レッドデータブック 2020」(令和 2 年、岡山県自然環境課)	LP	絶滅のおそれのある地域個体群
		絶滅	絶滅
		野生	野生絶滅
		I 類	絶滅危惧 I 類
		II 類	絶滅危惧 II 類
		準絶	準絶滅危惧
		不足	情報不足
留意	留意		

(1) 植物

1) 重要な植物種

重要な植物一覧は表 3-1. 29(1)～(5)に示すとおりであり、前項において抽出された維管束植物種のうち、74科 220種が重要な植物種に該当した。

表 3-1. 29 (1) 重要な植物一覧

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準					備考 (代表的な生育地)
					1	2	3	4	5	
維管束植物	1	ミズニラ科	ミズニラ	1				NT	I類	池沼地
	2		ミズニラモドキ	1				VU	準絶	池沼地, 水田, 畦, 溝
	3	イワヒバ科	イヌカタヒバ	1				VU		石垣, 路傍, 人里
	4	ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ	1					不足	里草地, 干拓地
	5	マツバラ科	マツバラ	1				NT	不足	石垣, 樹幹
	6	デンジソウ科	デンジソウ	1				VU	I類	放棄水田, 氾濫原
	7	サンショウモ科	オオアカウキクサ	1				EN	I類	水田
	8		アカウキクサ	1				EN	I類	池沼地
	9		サンショウモ	1				VU	I類	池沼地
	10	コバノイシカグマ科	イシカグマ	1					準絶	二次林, 里草地
	11	イノモトソウ科	ヒメミズワラビ	1					準絶	水田, 放棄水田, 畦
	12		ヒメウラジロ	1				VU		岩壁, 岩角地, 石灰岩地, 石垣
	13		マツサカシダ	1					準絶	植林
	14		アマクサシダ	1					準絶	二次林, 植林, 岩角地, 水田の石垣, 畦
	15	チャセンシダ科	シモツケヌリトラノオ	1					II類	岩壁, 岩角地
	16		カミガモシダ	1					II類	岩角地, 溪谷
	17	シシガシラ科	オオカグマ	1					I類	植林, 二次林
	18	メシダ科	ヘラシダ	1					準絶	二次林, 溪谷
	19		ヒカゲワラビ	1					I類	植林, 二次林, (例外的に市街地にも)
	20		ウスバミヤマノコギリシダ	1					II類	植林, 二次林
	21		シロヤマシダ	1					II類	植林, 二次林
	22		ミヤマノコギリシダ	1					準絶	植林, 二次林
	23		オンシダ科	コバノカナワラビ	1					I類
	24	ヒロハヤブソテツ		1					II類	植林, 溪谷, 岩壁, 崖錐
	25	ツクシイワヘゴ		1					II類	二次林, 植林
	26	イヌナチクジャク		1					準絶	二次林
	27	アツギノヌカイタチシダマガイ		1					準絶	二次林, 植林, 岩壁, 岩角地
	28	ナガサキシダ		1					II類	二次林, 植林
	29	ウラボシ科	タカノハウラボシ	1					II類	岩壁, 岩角地
	30	スイレン科	オニバス	1				VU	II類	小川, 池沼地, 水路
	31		サイコクヒメコウホネ	1					準絶	小川, 池沼地, 湿地
	32	センリョウ科	キビヒトリシズカ	1				VU	I類	自然林, 二次林, 溪谷, 山草地
	33	クスノキ科	ニッケイ	1				NT		二次林
	34	サトイモ科	マイヅルテンナンショウ	1				VU	I類	自然林, 二次林, 湖岸草地
	35		タカハシテンナンショウ	1				EN	II類	自然林, 二次林
	36		ムサシアブミ	1					準絶	自然林, 二次林
	37		オオハンゲ	1					準絶	自然林, 二次林, 植林
	38		オモダカ科	マルバオモダカ	1				VU	I類
	39	アギナシ		1				NT	準絶	池沼地, 湿地

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1. 28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.29 (2) 重要な植物一覧

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準					備考 (代表的な生育地)	
					1	2	3	4	5		
維管束植物	40	トチカガミ科	マルミスブタ	1				VU	I類	池沼地	
	41		スブタ	1				VU	II類	池沼地, 水田, 放棄水田, 溝	
	42		ヤナギスブタ	1					II類	池沼地, 水田, 溝	
	43		トチカガミ	1				NT	II類	小川, 池沼地, 溝, 水路	
	44		ムサシモ	1				EN	I類	池沼地	
	45		サガミトリゲモ	1				VU	I類	池沼地, 水田	
	46		イトトリゲモ	1				NT	I類	池沼地, 水田	
	47		イバラモ	1					I類	池沼地	
	48		ミズオオバコ	1				VU	II類	池沼地, 水田, 溝	
	49		ヒルムシロ科	イトモ	1				NT	I類	池沼地
	50			コバノヒルムシロ	1				VU	II類	池沼地
	51			リュウノヒゲモ	1				NT	II類	塩性湿地, 小川, 池沼地, 水路, 河川
	52			ツツイトモ	1				VU	II類	池沼地, 水路
	53			イトクズモ	1				VU	I類	塩性湿地, 小川, 池沼地, 溝, 水路
	54	ホンゴウソウ科		ホンゴウソウ	1				VU	I類	二次林
	55	ビャクブ科	ヒメナベワリ	1					準絶	二次林	
	56	ユリ科	ヒメユリ	1				EN	I類	岩角地, 山草地, 蛇紋岩地, 石灰岩地	
	57	ラン科	ヒナラン	1				EN	準絶	溪谷, 岩角地	
	58		シラン	1				NT	II類	湿地, 河原	
	59		エビネ	1				NT	II類	自然林, 二次林, 竹林, 植林	
	60		ギンラン	1					II類	自然林, 二次林	
	61		キンラン	1				VU	II類	二次林, 山草地	
	62		クゲヌマラン	1				VU	II類	緑地帯樹林下	
	63		クマガイソウ	1				VU	I類	二次林, 植林, 竹林	
	64		ツチアケビ	1					準絶	自然林, 二次林, 植林	
	65		ベニシュスラン	1					I類	自然林, 二次林	
	66		ミズトンボ	1				VU	準絶	湿地	
	67		ムカゴソウ	1				EN	I類	二次林, 湿地	
	68		ホクリクムヨウラン	1					I類	自然林	
	69		ムヨウラン	1					I類	自然林, 二次林	
	70		クロムヨウラン	1					I類	自然林, 二次林	
	71		ニラバラ	1					I類	岩角地, 山草地	
	72		サギソウ	1, 2				NT	II類	湿地	
	73		トンボソウ	1					準絶	二次林, 山草地, 湿地	
	74		トキソウ	1				NT	II類	湿地	
	75		ヤマトキシソウ	1					II類	山草地, 半自然草地, 湿地	
	76		クモラン	1					I類	自然林, 樹幹	
	77		ヒトツボクロ	1					II類	自然林, 二次林	
	78	アヤメ科	カキツバタ	1				NT	準絶	池沼地, 湿地	
	79		エヒメアヤメ	1				VU	I類	二次林, 山草地, 疎林内	
	80	クサスギカズラ科	ミズギボウシ	1					I類	湿地	
	81	ミズアオイ科	ミズアオイ	1		指定	NT	I類	河原, 小川, 池沼地		
	82	ガマ科	ミクリ	1				NT	II類	小川, 池沼地, 水路	
	83		オオミクリ	1				VU	I類	池沼地, 池湖岸	
	84		ナガエミクリ	1				NT	準絶	小川, 池沼地, 水路, 池湖岸	
	85		ヒメミクリ	1				VU	II類	池沼地, 湿地	
	86		コガマ	1					準絶	小川, 池沼地, 湿地, 放棄水田, 池	
	87		ホシクサ科	オオホシクサ	1					準絶	池沼地, 湿地, 池周辺
	88	ホシクサ		1					準絶	池沼地, 水田, 池周辺	
	89	ヤマトホシクサ		1				VU	準絶	湖岸, 湿地, 放棄水田, 水田	
	90	ツクシクロイヌノヒゲ		1				VU	I類	池沼地, 湿地, 池湖岸	

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.29 (3) 重要な植物一覧

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準					備考 (代表的な生育地)
					1	2	3	4	5	
維管束植物	91	イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	1					準絶	池沼地, 湿地, 水田, 埋立地
	92		タチコウガイゼキショウ	1					準絶	池沼地, 湿地
	93	カヤツリグサ科	アワボスゲ	1					準絶	山草地, 路傍
	94		ウマスゲ	1					II類	池沼地, 湿地
	95		オオムギスゲ	1					留意	二次林, 林縁, 路傍
	96		センダイスゲ	1					準絶	二次林
	97		ヤガミスゲ	1					準絶	河原
	98		カタスゲ	1					II類	林縁
	99		キビノミノボロスゲ	1				EN	I類	山草地, 里草地
	100		ホザキマスカサ	1				VU	準絶	河原, 小川
	101		ヌマガヤツリ	1					準絶	小川, 河原
	102		クロミノハリイ	1				CR	I類	池沼地
	103		ミカツキグサ	1					I類	湿地
	104		ヒメカンガレイ	1				VU		小川, 池沼地, 池周辺
	105		イヌヒメカンガレイ	1					II類	湿地
	106		マツカサススキ	1					準絶	山草地, 池沼地, 湿地
	107		カガシラ	1				VU	準絶	湿地
	108		シンジュガヤ	1					II類	半自然草地
	109		ミカワシンジュガヤ	1				VU	I類	湿地
	110		イネ科	ヒメコヌカグサ	1				NT	
	111	ホッスガヤ		1					準絶	山草地, 半自然草地, 湿地
	112	ヒナザサ		1				NT		池沼地, 湿地, 池湖岸
	113	ミズタカモジ		1				VU	I類	水田, 畦道
	114	イトスズメガヤ		1					II類	湿地
	115	コゴメカゼクサ		1					準絶	河原, 水田, 畦
	116	ウンスケモドキ		1				NT	準絶	二次林, 山草地, 疎林
	117	ハイチゴザサ		1					準絶	自然林, 二次林, 湿地
	118	スズメノコビエ		1					II類	里草地, 池沼地, 水田, 畦
	119	アワガエリ		1					準絶	河原, 林縁
	120	モロコシガヤ	1					I類	半自然草地	
	121	タケ亜科	アズマネザサ	1					留意	二次林, 林縁
	122		ジョウボウザサ	1					I類	二次林
	123		ビゼンナリヒラ	1					II類	河原, 堤防
	124	ケシ科	キケマン	1					準絶	里草地, 林縁, 海崖
	125	メギ科	オオバイカイカリソウ	1					準絶	二次林, 石灰岩地, 林縁
	126	キンポウゲ科	カザグルマ	1				NT	II類	二次林, 溪谷, 里草地, 林縁
	127		ヒキノカサ	1				VU	準絶	里草地, 畦道
128	ポタン科	ベニバナヤマシャクヤク	1				VU	I類	自然林, 二次林, 植林	
129	マンサク科	アテツマンサク	1				NT		自然林, 二次林, 岩角地	
130	ユズリハ科	ヒメユズリハ	1					準絶	自然林, 二次林, 海崖, 海岸付近の山地	
131	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	1				NT		岩角地, 瓦屋根, 石垣, 海に近い岩角地にも生える	
132		ウンゼンマンネングサ	1				VU		二次林, 溪谷, 岩角地	
133	タコノアシ科	タコノアシ	1				NT	準絶	河原, 小川, 池沼地, 水辺	
134	アリノトウグサ科	オグラノフサモ	1				VU	II類	小川, 池沼地	
135		タチモ	1				NT		池沼地, 湿地	
136	ブドウ科	シラガブドウ	1				EN	留意	二次林, 里草地, 河原, 林縁	
137	ハマビシ科	ハマビシ	1				EN	I類	里草地, 砂浜	

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.29 (4) 重要な植物一覧

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準					備考 (代表的な生育地)
					1	2	3	4	5	
維管束植物	138	マメ科	カラメドハギ	1					I類	河原
	139		イヌハギ	1				VU	準絶	里草地, 河原
	140		ヒメヨツバハギ	1					II類	二次林, 里草地, 半自然草地, 林縁
	141	バラ科	クサボケ	1					I類	二次林, 山草地, 半自然草地
	142		カワラサイコ	1					準絶	里草地, 河原, 土手
	143		ミチノクナシ	1				EN	不足	二次林, 林縁
	144		ヤブイバラ	1					準絶	自然林, 二次林, 山草地
	145		シモツケ	1					II類	里草地, 半自然草地
	146	グミ科	ナツアサドリ	1					留意	二次林, 岩角地, 山草地, 林縁
	147	イラクサ科	オオサンショウソウ	1					準絶	自然林, 二次林, 溪谷
	148		ホソバイラクサ	1					II類	里草地, 小川
	149	カバノキ科	サクラバハシノキ	1				NT		自然林, 二次林, 溪谷, 小川, 湿地
	150	トウダイグサ科	タカトウダイ	1					準絶	二次林, 山草地
	151	ヤナギ科	コゴメヤナギ	1					準絶	溪谷, 河原, 湖沼地
	152	オトギリソウ科	アゼオトギリ	1				EN	II類	里草地, 湿地, 水田, 放棄水田, 畦
	153		トサオトギリ	1				CR	I類	二次林, 里草地, 島嶼部
	154	ミソハギ科	ミズマツバ	1				VU		水田
	155		ヒメビシ	1				VU		池沼地, 河川
	156	アオイ科	ヘラノキ	1					I類	二次林
	157		ラセンソウ	1					I類	里草地, 畑, 路傍
	158	アブラナ科	オオマルバコンロンソウ	1				EN	II類	二次林, 植林, 溪谷, 竹林
	159		コイヌガラシ	1				NT		里草地, 池沼地, 水田, 畑, 放棄水田, 畦, 水辺
	160	タデ科	ヒメタデ	1				VU	II類	里草地, 湿地, 水田, 放棄水田
	161		ホソバイヌタデ	1				NT	準絶	河原
	162		サイコクヌカボ	1				VU	準絶	里草地, 池沼地, 湿地, 放棄水田
	163		ヤナギヌカボ	1				VU	準絶	里草地, 池沼地, 湿地, 放棄水田
	164		ナガバノウナギツカミ	1				NT		河原, 小川, 池沼地, 湿地, 放棄水田
	165		サクラタデ	1					準絶	里草地, 河原, 池沼地, 湿地, 放棄水田
	166		ヌカボタデ	1				VU	準絶	池沼地, 湿地, 放棄水田
	167		コギシギシ	1				VU		里草地, 池沼地, 水田, 畑, 放棄水田, 親水公園
168	モウセンゴケ科	イシモチソウ	1, 2				NT	準絶	山草地, 岩角地, 湿地, 湧水湿地	
169		トウカイコモウセンゴケ	1					準絶	湿地, 湧水湿地	
170	ナデシコ科	オオヤマフスマ	1					準絶	二次林, 山草地	
171		ヒメケフシグロ	1					準絶	山草地, 砂浜	
172	サクラソウ科	オオツルクウジ	1				EN	I類	二次林	
173		タイミンタチバナ	1					準絶	自然林, 二次林, 近海の山地, 島嶼部	
174	ハイノキ科	クロキ	1					準絶	二次林	
175	ツツジ科	ゲンカイツツジ	1				NT	留意	自然林, 二次林, 溪谷, 岩角地	
176	リンドウ科	コケリンドウ	1					I類	里草地	
177		ムラサキセンブリ	1				NT	I類	山草地, 里草地	
178		イヌセンブリ	1				VU	準絶	山草地, 里草地, 湿地, ため池堰堤	
179	マチン科	チトセカズラ	1				VU		自然林, 二次林, 溪谷, 岩角地, 近海の岩場にも生える	
180	キョウチクトウ科	チョウジソウ	1				NT	II類	山草地, 池沼地, 湿地	

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.29 (5) 重要な植物一覧

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準					備考 (代表的な生育地)	
					1	2	3	4	5		
維管束植物	181	キョウチクトウ科	スズサイコ	1				NT	準絶	岩角地, 山草地, 里草地, 畦畔の土手	
	182	ヒルガオ科	マメダオシ	1				CR	不足	畑	
	183	オオバコ科	トウオオバコ	1					準絶	里草地, 砂浜	
	184		ヒシモドキ	1				EN	I類	小川, 池沼地, 水路	
	185		マルバノサワトウガラシ	1				VU	準絶	池沼地, 湿地	
	186		オオアブノメ	1				VU	準絶	池沼地, 水田, イグサ田, ハス田, 川辺	
	187		コキクモ	1				VU	準絶	池沼地, 水田	
	188		スズメノハコベ	1					I類	水田	
	189		イヌノフグリ	1				VU	準絶	山草地, 里草地, 畑, 路傍, 石垣	
	190		カワヂシャ	1				NT		河原, 小川, 水田, 畦, 溝, 水路	
	191		シソ科	ツクバキンモンソウ	1					II類	自然林, 二次林, 山草地, 林縁
	192			ミカエリソウ	1					準絶	自然林, 二次林
	193	ホソバヤマジソ		1				VU	II類	岩角地, 山草地	
	194	ヤマジソ		1				NT	II類	岩角地, 山草地	
	195	ミゾコウジュ		1, 2				NT		里草地, 河原, 小川, 池沼地	
	196	ヒメナミキ		1					準絶	里草地, 湿地	
	197	イヌゴマ		1					準絶	河原, 小川, 土手	
	198	ハマゴウ		1					準絶	砂浜, 河原	
	199	ハマウツボ科		ハマウツボ	1				VU	II類	里草地, 河原, 河口部
	200		ゴマクサ	1				VU	I類	湿地	
	201		ヒキヨモギ	1					準絶	山草地, 里草地, 半自然草地, 山火事跡	
	202		オオヒキヨモギ	1				VU		二次林, 山草地, 林縁, 路傍	
	203	タヌキモ科	ノタヌキモ	1				VU	準絶	1991岡山市(博物館)→(+)	
	204		イヌタヌキモ	1				NT)	
	205		ヒメタヌキモ	1				NT	II類	池沼地, 湿地	
	206		ムラサキミミカキグサ	1				NT	準絶	湿地	
	207	キキョウ科	キキョウ	1				VU		二次林, 山草地, 里草地, 半自然草地, 海崖, 疎林, 林縁	
208	ミツガシワ科	ヒメシロアサザ	1				VU	II類	小川, 池沼地, 水田, 放棄水田		
209		ガガブタ	1				NT	II類	小川, 池沼地		
210		アサザ	1				NT	II類	小川, 池沼地, 河川		
211	キク科	ヌマダイコン	1					準絶	里草地, 池沼地		
212		イワヨモギ	1				VU		里草地, 法面		
213		キクタニギク	1				NT		山草地, ため池の堤防, 法面		
214		フジバカマ	1				NT	準絶	山草地, 里草地, 河原		
215		カセンソウ	1					準絶	山草地, 里草地		
216		ホソバニガナ	1				EN	II類	二次林, 池沼地, 湿地		
217		タカサゴソウ	1				VU	準絶	二次林, 山草地, 里草地, 半自然草地		
218		アキノハハコグサ	1				EN	II類	里草地		
219		オナモミ	1				VU	I類	里草地, 池沼地, 池湖岸		
220		セリ科	ミシマサイコ	1				VU	準絶	岩角地, 山草地, 里草地	
合計	74科	220種	-	0種	0種	1種	123種	196種	-		

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

2) 重要な植物群落

調査対象地域において、特出すべき重要な植物群落は見られない。

3) 巨樹・巨木

調査対象地域の巨樹・巨木の状況は表 3-1.30 及び図 3-1.19 に示すとおりである。

表 3-1.30 巨樹・巨木の状況

区分	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)	所在地	調査種別	選定基準
単木	アベマキ	340	25	笠岡市大島中 竹田稲荷神社	第4・6回調査	天然記念物等(市町村)

出典：「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査(第4回・第6回)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)



凡 例

-  対象事業実施区域
-  巨樹・巨木



SCALE 1 : 25,000



この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。

出典：「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査（第4回・第6回）」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ）

図 3-1.19 巨樹・巨木位置図

(2) 動物

1) 重要な動物種

重要な動物一覧は表 3-1. 31(1)～(11)に示すとおりであり、前項において抽出した動物種のうち、哺乳類 11 種、鳥類 27 種、爬虫類 5 種、両生類 8 種、昆虫類 186 種、クモ類 5 種、魚類 17 種、底生動物 26 種、陸産貝類 24 種が重要な動物種に該当した。

表 3-1. 31 (1) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準					
						1	2	3	4	5	
哺乳類	1	コウモリ目	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	1					II 類	
	2			モモジロコウモリ	1					II 類	
	3			ヤマコウモリ	1				VU	I 類	
	4			ヒナコウモリ	1					I 類	
	5			ユビナガコウモリ	1					II 類	
	6			コテングコウモリ	1					I 類	
	7			オヒキコウモリ科	オヒキコウモリ	1				VU	I 類
	8	ネズミ目	リス科	ムササビ	1					II 類	
	9			ハタネズミ	1					II 類	
	10			カヤネズミ	1					II 類	
	11	ネコ目	イタチ科	ニホンイタチ	1					II 類	
合計	3目	6科	11種	-	0種	0種	0種	2種	11種		
鳥類	1	カモ目	カモ科	ツクシガモ	1				VU	II 類	
	2			オシドリ	1				DD	準絶	
	3			トモエガモ	1				VU	II 類	
	4	ペリカン目	サギ科	チュウサギ	1, 2				NT	II 類	
	5	ツル目	クイナ科	クイナ	1					II 類	
	6			ヒクイナ	1				NT	II 類	
	7	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ	1					準絶	
	8	チドリ目	チドリ科	ケリ	1				DD		
	9			イカルチドリ	1						準絶
	10			セイタカシギ科	セイタカシギ	1				VU	準絶
	11			シギ科	ハマシギ	1				NT	準絶
	12			ミサゴ科	ミサゴ	1, 2				NT	
	13	タカ目	タカ科	ハチクマ	1, 2				NT	II 類	
	14			チュウヒ	1		国内		EN	I 類	
	15			ハイイロチュウヒ	1						準絶
	16			ツミ	1						II 類
	17			ハイタカ	1, 2					NT	II 類
	18			オオタカ	1, 2					NT	II 類
	19			サシバ	1					VU	II 類
	20	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	1, 2					II 類	
	21	ブッポウソウ目	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	1				EN	I 類	
	22	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	1					準絶	
	23			ハヤブサ	1, 2		国内		VU	II 類	
	24	スズメ目	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	1					準絶	

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1. 28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (2) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準					
						1	2	3	4	5	
鳥類	25	スズメ目	ヒタキ科	コマドリ	1					準絶	
	26			コルリ	1					準絶	
	27		ホオジロ科	ホオアカ	1					準絶	
	合計	10目	15科	27種	-	0種	2種	0種	16種	25種	
爬虫類	1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	1				NT	II類	
	2		スッポン科	ニホンスッポン	1				DD	不足	
	3	有隣目	ヤモリ科	タワヤモリ	1				NT	II類	
	4		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	1					II類	
	5		ナミヘビ科	シロマダラ	1					II類	
	合計	2目	5科	5種	-	0種	0種	0種	3種	5種	
両生類	1	有尾目	サンショウウオ科	セトウチサンショウウオ	1,2				VU	I類	
	2		イモリ科	アカハライモリ	1				NT	準絶	
	3	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	1					II類	
	4		アカガエル科	ナゴヤダルマガエル	1,2				EN	I類	
	5			トノサマガエル	1				NT	準絶	
	6		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	1					準絶	
	7			モリアオガエル	1					II類	
	8			カジカガエル	1					準絶	
	合計		2目	5科	8種	-	0種	0種	0種	4種	8種
昆虫類	1	トンボ目	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	1				EN	I類	
	2		カワトンボ科	アオハダトンボ	1				NT	準絶	
	3		モノサシトンボ科	グンバイトンボ	1				NT	準絶	
	4		イトトンボ科	ベニイトトンボ	1				NT	不足	
	5			ヒヌマイイトトンボ	1				EN	I類	
	6			モートンイトトンボ	1				NT	準絶	
	7			ムスジイトトンボ	1					不足	
	8			ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	1				NT	準絶
	9				アオヤンマ	1				NT	準絶
	10			サナエトンボ科	キイロサナエ	1				NT	
	11		ナゴヤサナエ		1				VU	I類	
	12		タベサナエ		1				NT		
	13		フタスジサナエ		1				NT		
	14		オグマサナエ		1				NT	準絶	

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (3) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
						1	2	3	4	5
昆虫類	15	トンボ目	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	1					不足
	16		エゾトンボ科	ハネヒロエゾトンボ	1				VU	準絶
	17		ヤマトンボ科	キイロヤマトンボ	1				NT	II類
	18		トンボ科	ベッコウトンボ	1		国内		CR	絶滅
	19			ハッチョウトンボ	1					準絶
	20			アキアカネ	1					不足
	21			ナニワトンボ	1				VU	II類
	22			ノシメトンボ	1					不足
	23			マダラナニワトンボ	1				EN	絶滅
	24		オオキトンボ	1				EN	I類	
	25	ナナフシ目	ナナフシムシ科	トゲナナフシ	1				不足	
	26	バッタ目	クツワムシ科	クツワムシ	1				準絶	
	27		バッタ科	セグロイナゴ	1				II類	
	28			カワラバッタ	1				I類	
	29	カマキリ目	カマキリ科	ヒナカマキリ	1				不足	
	30			ウスバカマキリ	1			DD	不足	
	31	カメムシ目	アワフキムシ科	タカイホソアワフキ	1				不足	
	32		ヨコバイ科	カワムラヨコバイ	1				不足	
	33		タイコウチ科	ヒメミズカマキリ	1				準絶	
	34		コオイムシ科	コオイムシ	1				NT	
	35			タガメ	1, 2		国内		VU	II類
	36		ミズムシ科	ミヅナシミズムシ	1				NT	不足
	37			ホッケミズムシ	1				NT	不足
	38			オオミズムシ	1				NT	不足
	39			ナガミズムシ	1				NT	不足
	40			ヒメコミズムシ	1					準絶
	41			ミヤケミズムシ	1				NT	準絶
	42		アメンボ科	エサキアメンボ	1				NT	不足
	43		サシガメ科	オオアシナガサシガメ	1				NT	
	44			フサヒゲサシガメ	1				VU	I類
	45			ハリサシガメ	1				NT	不足
	46		ツチカメムシ科	ジムグリツチカメムシ	1					不足
	47			シロヘリツチカメムシ	1				NT	準絶
	48		カメムシ科	フタテシカメムシ	1					不足

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (4) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
						1	2	3	4	5
昆虫類	49	ハチ目	ナギナタハバチ科	オオナギナタハバチ	1				VU	不足
	50		コンボウハバチ科	ホシアシブトハバチ	1				DD	
	51		ヤドリキバチ科	トサヤドリキバチ	1				DD	
	52		コマユバチ科	ウマノオバチ	1				NT	不足
	53		クモバチ科	スギハラクモバチ	1				DD	不足
	54			アケボノベッコウ	1				DD	
	55			キオビクモバチ	1					II類
	56			ヤマトツツクモバチ	1					不足
	57		アリ科	イバリアリ	1					不足
	58			トゲアリ	1				VU	
	59		ツチバチ科	オオハラナガツチバチ	1					不足
	60		スズメバチ科	キボシトックリバチ	1					準絶
	61			ヤマトアシナガバチ	1				DD	
	62			モンズズメバチ	1,2				DD	
	63		アナバチ科	ニッポンモンキジガバチ	1					準絶
	64			キゴシジガバチ	1					I類
	65		ギングチバチ科	ニッポンハナダカバチ	1				VU	準絶
	66			ヤマトスナハキバチ	1				DD	
	67			キアシハナダカバチモドキ	1				VU	不足
	68			クロケラトリバチ	1					不足
	69			ヤマトコトガタバチ	1					不足
	70		コハナバチ科	アナアキアシブトハナバチ	1					不足
	71		ハキリバチ科	オオトガリハナバチ	1					不足
	72			キバラハキリバチ	1				NT	準絶
	73			ネジロハキリバチ	1					不足
	74			ヤマトハキリバチ	1					不足
75	マイマイツツハナバチ	1					DD			
76	シロスジフトハナバチ	1						準絶		

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (5) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
						1	2	3	4	5
昆虫類	77	ハチ目	ハキリバチ科	ウスルリモンハナバチ	1					準絶
	78			クロマルハナバチ	1				NT	準絶
	79	アミカゲロウ目	ウスバカゲロウ科	キバネツノトンボ	1					準絶
	80	コウチュウ目	ミズスマシ科	オオミズスマシ	1				NT	II類
	81			ヒメミズスマシ	1				EN	II類
	82			ミズスマシ	1				VU	II類
	83		オサムシ科	キベリマルクビゴミムシ	1				EN	I類
	84			ヨドシロヘリハンミョウ	1				VU	I類
	85			カワラハンミョウ	1				EN	絶滅
	86			ルイスハンミョウ	1				EN	絶滅
	87			ホソハンミョウ	1				VU	準絶
	88			キバナガミズギワゴミムシ	1					準絶
	89			キバネキバナガミズギワゴミムシ	1				VU	準絶
	90			ヒトツメアオゴミムシ	1				NT	
	91			オオサカアオゴミムシ	1				DD	II類
	92			ツヤキベリアオゴミムシ	1				VU	II類
	93			タナカツヤハネゴミムシ	1				DD	
	94			チョウセンゴモクムシ	1				VU	II類
	95			オオヒラタトックリゴミムシ	1				CR	不足
	96			オオトックリゴミムシ	1				NT	不足
	97			イグチケブカゴミムシ	1				NT	
98	コガシラミズムシ科			クロホシコガシラミズムシ	1				VU	不足
99		キイロコガシラミズムシ		1				VU	準絶	
100		マダラコガシラミズムシ	1				VU	準絶		
101	コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	1				VU	準絶		

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (6) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準						
						1	2	3	4	5		
昆虫類	102	コウチュウ目	コツブゲンゴロウ科	キボシチビコツブゲンゴロウ	1				EN	II類		
	103			ムモンチビコツブゲンゴロウ	1				VU	不足		
	104	ゲンゴロウ科		キベリクロヒメゲンゴロウ	1				NT	準絶		
	105			キベリマメゲンゴロウ	1				NT	II類		
	106			モンキマメゲンゴロウ	1					準絶		
	107			マルガタゲンゴロウ	1				VU	I類		
	108			コガタノゲンゴロウ	1				VU	II類		
	109			ゲンゴロウ	1				VU	I類		
	110			シマゲンゴロウ	1				NT	II類		
	111			コマルケシゲンゴロウ	1				NT	II類		
	112			オオマルケシゲンゴロウ	1				NT	II類		
	113			サメハダマルケシゲンゴロウ	1					II類		
	114			マルケシゲンゴロウ	1				NT	不足		
	115			キボシケシゲンゴロウ	1				DD	II類		
	116			ケシゲンゴロウ	1				NT	不足		
	117			ヒメケシゲンゴロウ	1				VU	不足		
	118			ルイスツブゲンゴロウ	1				VU	II類		
	119			シャープツブゲンゴロウ	1				NT	II類		
	120			ガムシ科		チュウブホソガムシ	1				VU	不足
	121					マルヒラタガムシ	1				NT	
	122					スジヒラタガムシ	1				NT	
	123					コガムシ	1				DD	
	124	ガムシ	1						NT			
	125	コガタガムシ	1						VU	準絶		
	126	シデムシ科	ヤマトモンシデムシ			1				NT	II類	
	127	クワガタムシ科	オオクワガタ	1				VU	不足			
	128	コガネムシ科	オオフタホシマグソコガネ	1					II類			

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (7) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
						1	2	3	4	5
昆虫類	129	コウチュウ目	コガネムシ科	ヨツボシマグソコガネ	1					II類
	130			ダイコクコガネ	1				VU	II類
	131			マルエンマコガネ	1					絶滅
	132			アカマダラハナムグリ	1				DD	準絶
	133		ヒメドロムシ科	アヤスジミゾドロムシ	1				EN	II類
	134			ヨコミゾドロムシ	1				VU	
	135		カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	1				EN	準絶
	136		ハムシ科	イネネクイハムシ	1					準絶
	137			カツラネクイハムシ	1					準絶
	138			ルリナガツハムシ	1					II類
	139		ゾウムシ科	カギアシゾウムシ	1					不足
	140			フタホシカギアシゾウムシ	1					不足
	141		ハエ目	ミズアブ科	コガタミズアブ	1				
	142	ツリアブ科		トラツリアブ	1					不足
	143	ハナアブ科		スズキベッコウハナアブ	1					不足
	144			ハチモドキハナアブ	1					不足
	145	ニクバエ科		ハマベニクバエ	1					不足
	146	トビケラ目	マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ	1					準絶
	147		トビケラ科	ムラサキトビケラ	1					準絶
	148		カクスイトビケラ科	ハルノマルツツトビケラ	1					I類
149	アシエダトビケラ科		ビワアシエダトビケラ	1				NT	準絶	
150	チョウ目	セセリチョウ科	スジグロチャバネセセリ	1				NT	留意	
151			ミヤマチャバネセセリ	1					準絶	
152		シロチョウ科	ツマグロキチョウ	1				EN	留意	
153			スジボソヤマキチョウ	1					準絶	
154		シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ	1					準絶	
155			クロシジミ	1				EN	II類	
156			シルビアシジミ	1				EN	留意	

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (8) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準					
						1	2	3	4	5	
昆虫類	157	チョウ目	シジミチョウ科	クロツバメシジミ	1				NT	Ⅱ類	
	158		タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	1				VU	準絶	
	159			オオウラギンヒョウモン	1				CR	絶滅	
	160			ヒョウモンモドキ	1		国内		CR	絶滅	
	161			シータテハ	1					絶滅	
	162			オオムラサキ	1				NT	準絶	
	163			ウラナミジャノメ	1				VU	Ⅱ類	
	164			ヒメヒカゲ	1				EN	Ⅰ類	
	165			クロヒカゲモドキ	1				EN	準絶	
	166			マダラガ科	ヤホシホソマダラ	1				NT	
	167			スカシバガ科	アシナガモモプトスカシバ	1				VU	
	168		ボクトウガ科	ハイイロボクトウ	1				NT	不足	
	169		ヤママユガ科	オナガミズアオ	1				NT		
	170		スズメガ科	ギンボシスズメ	1					不足	
	171			ヒメスズメ	1				NT	Ⅱ類	
	172		ドクガ科	スゲドクガ	1				NT	不足	
	173		ヒトリガ科	シロホソバ	1				NT		
	174			ヤネホソバ	1				NT		
	175		ヤガ科	キシタアツバ	1				NT		
	176			カギモンハナオイアツバ	1				NT		
	177			コシロシタバ	1				NT		
	178			ウスズミケンモン	1				NT		
	179			クビグロケンモン	1				NT	不足	
	180			アオモンギンセダカモクメ	1				NT	準絶	
	181			アカヘリヤガ	1				NT		
	182			オオチャバネヨトウ	1				VU	Ⅱ類	
	183			クスジウスキヨトウ	1				VU	不足	
	184			ギンモンアカヨトウ	1				VU	準絶	
185	ウスミモンキリガ	1					NT	不足			
186	ミスジキリガ	1				NT					
	合計	11目	69科	186種	-	0種	2種	0種	130種	154種	

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。
 2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1. 28 を参照。
 3. 文献資料の出典は以下のとおりである。
 1 : 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。
 2 : 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (9) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
						1	2	3	4	5
クモ類	1	クモ目	ジグモ科	ワスレナグモ	1				NT	不足
	2		トタテグモ科	キノボリトタテグモ	1				NT	不足
	3			キシノウエトタテグモ	1				NT	準絶
	4		コガネグモ科	コガネグモ	1					準絶
	5		ハウシグモ科	ドウシグモ	1				DD	
	合計	1目	4科	5種	-	0種	0種	0種	4種	4種
魚類	1	コイ目	ウナギ科	ニホンウナギ	1				EN	I 類
	2		コイ科	ゲンゴロウブナ	1				EN	
	3			ヤリタナゴ	1				NT	準絶
	4			アブラボテ	1				NT	準絶
	5			カネヒラ	1					準絶
	6			シロヒレタビラ	1				EN	I 類
	7			ワタカ	1				CR	
	8			ハス	1				VU	
	9			カワヒガイ	1				NT	準絶
	10			ゼゼラ	1				VU	準絶
	11		ドジョウ科	ドジョウ	1				DD	準絶
	12			チュウガタスジシマドジョウ	1				VU	II 類
	13			サンヨウコガタスジシマドジョウ	1				CR	I 類
	14	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	1				VU	準絶
	15	スズキ目	ハゼ科	ゴクラクハゼ	1					準絶
	16			シマヒレヨシノボリ	1				NT	
	17			ウキゴリ	1					準絶
合計	3目	5科	17種	-	0種	0種	0種	14種	13種	
底生動物	1	エビ目	テナガエビ科	ミナミテナガエビ	1					不足
	2			ヒラテテナガエビ	1					不足
	3		ヌマエビ科	ミゾレヌマエビ	1					準絶
	4			ヤマトヌマエビ	1					不足
	5			ミナミヌマエビ	1					I 類
	6			ヌマエビ	1					準絶
	7	新生腹足目	タニシ科	オオタニシ	1				NT	II 類
	8			マルタニシ	1				VU	I 類
	9		カワニナ科	クロダカワニナ近似種	1				NT	
	10		エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ	1				VU	不足
	11			マメタニシ	1				VU	II 類
	12		ミズゴマツボ科	ミズゴマツボ	1				VU	I 類

注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。

2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。

3. 文献資料の出典は以下のとおりである。

1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。

2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (10) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準					
						1	2	3	4	5	
底生動物	13	汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ近似種(モノアラガイ)	1				NT	I類	
	14		ヒラマキガイ科	カワネジガイ		1				CR	I類
	15			ヒラマキミズマイマイ		1				DD	
	16			ヒメヒラマキミズマイマイ		1				EN	II類
	17			レンズヒラマキ		1				VU	不足
	18			ヒラマキモドキ		1				NT	
	19	イシガイ目	イシガイ科	カラスガイ		1				NT	不足
	20			オバエボシガイ		1				VU	II類
	21			ニセマツカサガイ		1				VU	II類
	22			トンガリササノハガイ		1				NT	準絶
	23			カタハガイ		1				VU	II類
	24			マツカサガイ		1				NT	
	25			イケチョウガイ		1				CR	不足
	26	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ		1				VU	不足
合計	5目	10科	26種	-	0種	0種	0種	20種	22種		
陸産貝類	1	腹足目	ヤマタニシ科	サドヤマトガイ	1				NT	I類	
	2	柄眼目	モノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	1				NT		
	3		キセルモドキ科	ヤセキセルモドキ		1				CR+EN	II類
	4			キセルモドキ		1					準絶
	5		スナガイ科	スナガイ		1				NT	
	6		キセルガイ科	ウスベニギセル		1					II類
	7			ショウドシマギセル近似種		1				VU	II類
	8			ヒメコギセル		1					準絶
	9			ナミコギセル		1					II類
	10		シタラ科	ヒゼンキビ		1				NT	準絶
	11			ヒメハリマキビ		1				NT	不足
	12			ウメムラシタラ		1				NT	II類
	13			オオウエキビ		1				DD	準絶
	14			ヒメカサキビ		1				NT	準絶
	15			ナミヒメベッコウ		1					
	16		ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウ		1				DD	準絶
	17		ナンバマイマイ科	チャイロオトマイマイ		1					不足

- 注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。
 2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。
 3. 文献資料の出典は以下のとおりである。
 1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。
 2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

表 3-1.31 (11) 重要な動物一覧

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
						1	2	3	4	5
陸産貝類	18	柄眼目	ナンバマイマイ科	コオオベソマイマイ	1					準絶
	19			アワジオトメマイマイ	1					I類
	20			イズモマイマイ	1					準絶
	21			ダイセンニシマキマイマイ	1					準絶
	22			カタメマイマイ	1				VU	II類
	23			ビロウドマイマイ	1				DD	準絶
	24			アキラマイマイ	1				EN	準絶
	合計			2目	8科	24種	-	0種	0種	0種

- 注) 1. 種名及び配列は「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に準拠した。
 2. 重要な種の選定基準及び略称は表 3-1.28 を参照。
 3. 文献資料の出典は以下のとおりである。
 1: 「岡山県野生生物目録 2019」(平成 31 年、岡山県自然環境課)に記載された種。
 2: 「玉島笠岡道路環境影響評価書」(平成 12 年、岡山県)において、現地調査で確認された種。

2) 注目すべき生息地

調査対象地域において、特出して注目すべき生息地は見られない。

4. 生態系

調査対象地域は、山地のネズ、アカマツ、スギ等の常緑針葉樹林やアベマキ、コナラ等の落葉広葉樹林、低地の耕作地や草地、ため池や河川等の水域を基盤とし、山地から低地を広く利用するホンドキツネやミサゴ等の猛禽類を頂点とした生態系が構成されていると推測される。

3-1-6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

1. 景観

(1) 景観特性

対象事業実施区域及びその周囲の景観特性は、丘陵地部の樹林地と低地部の農地、ため池等の自然的な景観と、低地部を中心とした住宅、道路等の市街地的な景観により構成される。また、対象事業実施区域には既存の焼却施設が立地しており、その北側地域からは工場棟及び煙突が視認でき、地域における特徴的な存在となっている。

(2) 景観資源

対象事業実施区域周囲の景観資源を表 3-1.32 及び図 3-1.20 に示す。

表 3-1.32 景観資源の状況

名称	種類
龍城院	寺院
大浦神社	神社
里庄駅付近の風景（夕方）	美しい夕暮れの風景
里庄町立図書館	図書館

出典：「浅口市観光マップ[あさくち 30 景]」（平成 22 年、浅口市観光協会）、「さとしょう時景」（里庄町企画商工課ホームページ）

2. 人と自然との触れ合いの活動の場

対象事業実施区域周囲の人と自然との触れ合いの活動の場を表 3-1.33 及び図 3-1.21 に示す。

表 3-1.33 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

名称	種類
いきいき笠岡 21 かぶとがに健康ウォーキングコース	ウォーキングコース
寄島 B&G 海洋センター	スポーツ施設
寄島運動場	運動場
六条院中西ウォーキングコース	ウォーキングコース
寄島西部ウォーキングコース	ウォーキングコース
里庄中学校運動公園（ナイター施設）	スポーツ施設
里庄町健康ウォーキングコース	ウォーキングコース
備南アルプス縦走路（柴木天神山・茶臼山・毛野無羅山）	登山道

出典：「いきいき笠岡 21 かぶとがに健康ウォーキングコース」（笠岡市健康推進課ホームページ）、「施設案内」（浅口市ホームページ）、「あさくちトレッキング MAP」（平成 27 年、浅口市浅口市内トレッキングルート開発事業検討委員会）、「里庄町のスポーツ施設一覧」（里庄町教育委員会事務局ホームページ）、「里庄町健康ウォーキングコース」（平成 19 年、里庄町健康福祉課）



凡 例



対象事業実施区域



主要な景観資源



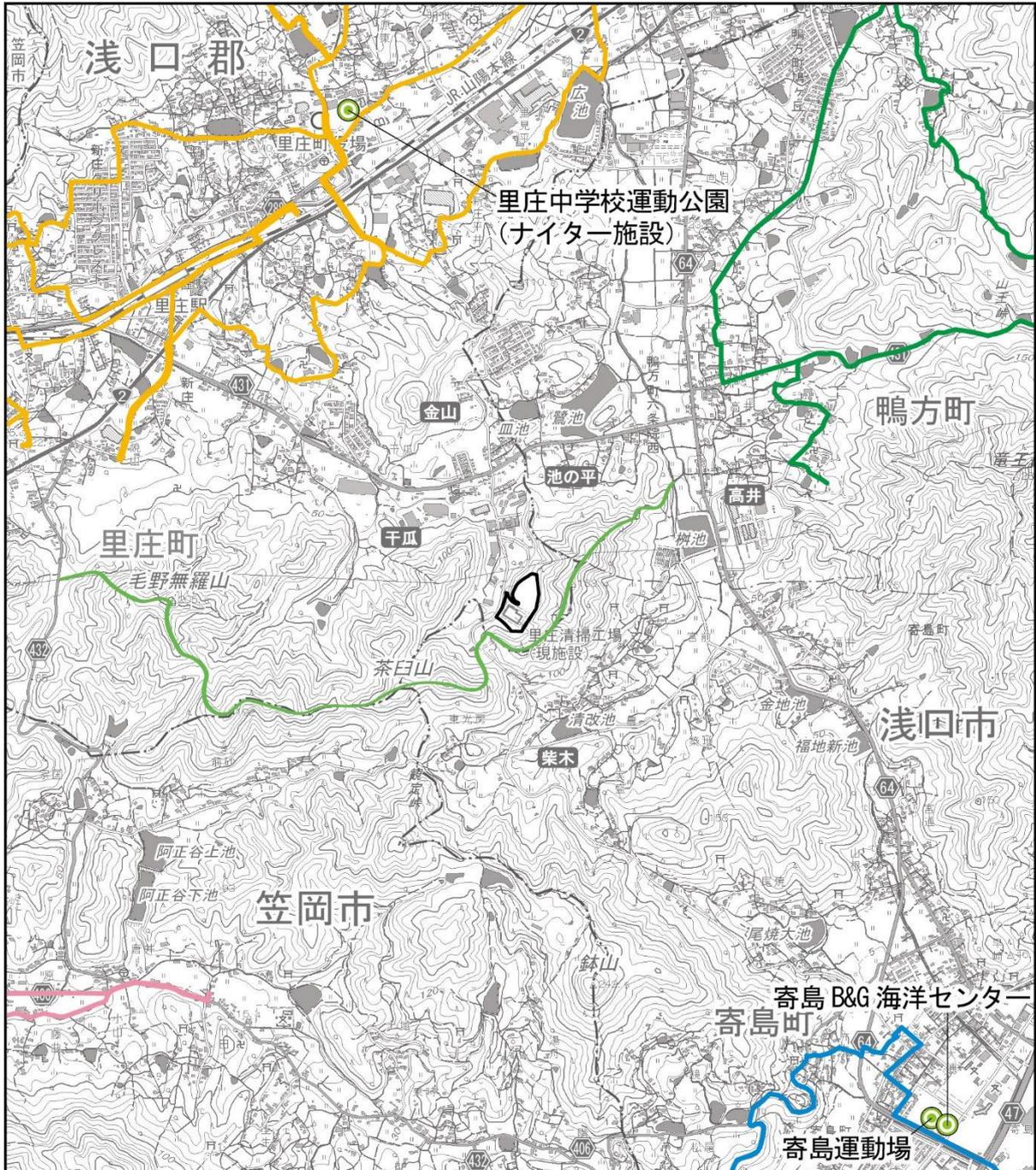
SCALE 1 : 25,000

0 0.5 1.0km

この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。

出典：「さとしょう時景」（里庄町企画商工課ホームページ）、「浅口市観光マップ〔あさくち 30 景〕」（平成 22 年、浅口市観光協会）

図 3-1.20 景観資源位置図

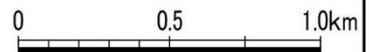


凡 例

-  対象事業実施区域
-  人と自然との触れ合いの場
-  六条院中西ウォーキングコース
-  寄島西部ウォーキングコース
-  里庄町健康ウォーキングコース
-  いきいき笠岡21かぶとがに健康ウォーキングコース
-  備南アルプス縦走路（柴木天神山・茶臼山・毛野無羅山）



SCALE 1 : 25,000



この地図は、国土地理院発行の数値地図 25000 をもとに作成した。

出典：「いきいき笠岡 21 かぶとがに健康ウォーキングコース」（笠岡市健康推進課ホームページ）、「施設案内」（浅口市ホームページ）、「あさくちトレッキング MAP」（平成 27 年、浅口市浅口市内トレッキングルート開発事業検討委員会）、「里庄町のスポーツ施設一覧」（里庄町教育委員会事務局ホームページ）、「里庄町健康ウォーキングコース」（平成 19 年、里庄町健康福祉課）

図 3-1.21 人と自然との触れ合いの活動の場位置図